

改正法令規則全書

明治三十一年三月改正

大阪 法令館藏版

030863-000-3

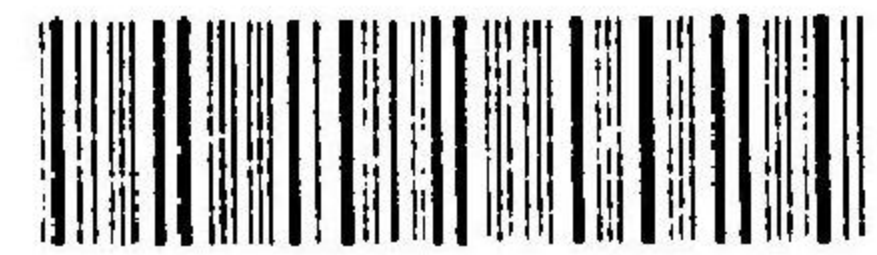
CZ-5-0152

改正法令規則全書

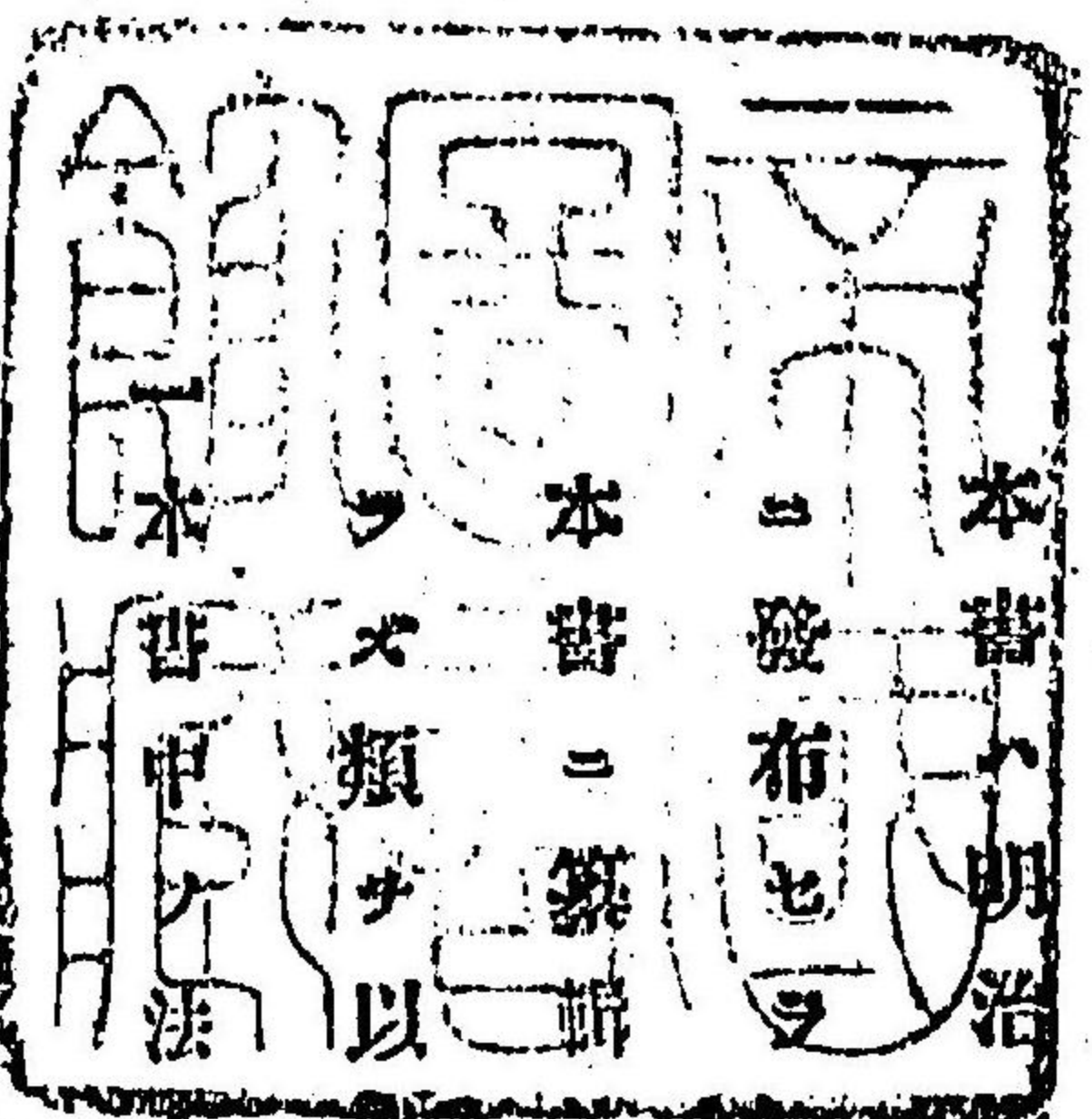
博多 久吉/編

M3 1

BBC-0049



凡例



本書ハ明治三十一年二月至ル迄ニ發布セシモノシテ諸法令ヲ訂正編纂セシ者ナリ

本書ニ纂輯スル諸法令規則ハ發布ノ年月ニ拘ラズ類ヲ以テ之ヲ列載ス

本書中ノ法令ニシテ一部分ノ廢改加除アル者ハ面ヲニ各本條ニ就キ之ヲ訂正シ而シテ其條

下、何年何月何號法律又ハ省令ニ依リ云々ト

付記ス

CZ
5
015Z

法 令 規 則

法令規則全書目次

○罰例處斷法	二	○地租條例	九三
○徵兵令	一	○鑛業條例	九九
○徵兵事務條例	一二	○大藏省證券條例	一二〇
○徵兵事務條例補則	二七	通貨及證券模造取締法	一二三
○徵發令	二九	銀行條例	全
○登錄稅法	三九	○銀行條例施行細則	一二四
○營業稅法	四八	○貯蓄銀行條例	一三二
○全 施行細則	五九	○貯蓄銀行條例施行細則	一三四
○登記法	六六	○滙兌紙製造取締規則	一三五
○所得稅法	七七	○取引所法	全
○全 施行細則	八二	○全 施行細則	一四二
○國稅徵收法	八六	○稅法	一四七
		○議會並議員保護規則	一四九
		○衆議院議員撰學法罰則	一五〇

○全 罰則補則	一五三	○醬油稅則	一九五
○府縣會議員選舉規則	一五四	○全 施行細則	一九九
○衆議院議員選舉法罰則 補則及府縣會議員選舉 法~適用ノ件	一六八	○藥品營業並藥品取扱規則	二〇三
○市町村會議員選舉罰則	一六九	○藥用阿片賣買並製造規則	二一〇
○酒造稅法	一七三	○賣藥規則	二二三
○自家用酒稅法	一八〇	○全 印紙稅規則	二二七
○混成酒稅法	一八三	○證券印稅規則	二二九
○酢元用酒類製造規則	一八四	○民事訴訟用印紙法	二二七
○酒精營業稅法	一八五	○商事非訟事件印紙法	二三一
○全 施行細則	一八七	○商標條例	二三四
○醫藥用及工業用酒精營業 稅免除ニ關スル件	一九一	○意匠條例	二三九
○醫藥營業稅則	一九三	○特許條例	二四四
		○決闘條例	二五四
		○請願條例	二五五

○集會及政社法	二五八	○火藥取締規則	三四八
○出版法	二六六	○爆發物取締規則	三五四
○版權法	二七三	○石油取締規則	三五六
○脚本樂譜條例	二七九	○醫師免許規則	三五八
○寫真版權條例	二八〇	○獸醫免許規則	三六〇
○郵便條例	二八二	○種痘規則	三六二
○第三種郵便物認可規則	三一五	○傳染病豫防法	三六三
○小包郵便法	三一七	○獸疫豫防法	三七三
○代金引換小包郵便規則	三二〇	○車稅規則	三七八
○電信條例	三二三	○危害品積込規則	三八〇
○狩獵法	三三五	○檢疫停船規則	三八一
○全 施行細則	三四〇	○虎列刺病流行地方ヨリ來 ル船舶検査規則	三九〇
○銃砲取締規則	三四四	○内河船舶破及漂流物取扱 規則	三九一
○銃砲取締規則違犯者處分	三四七		

特15
281

法 令 規 則 全 書

法 令 規 則 全 書

- 罰例處斷法 明治十四年十二月
第七十二號布告
- 第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス
- 第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス
- 第三條 凡罰金及ヒ科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未滿ヲ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ咎可申付トアルハ總テ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
- 第六條 法律規則中罰令アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス
- 第七條 (二十三年法律第六號ニテ消滅ス)

法 令 規 則 全 書

- 度量衡法 四〇二
- 測量標規則 四〇九
- 北海道ニ徵兵令施行ノ件 四一九
- 沖繩縣ニ徵兵令施行ノ件 四二〇
- 古物商取締法 四二〇
- 全 細則 四二五
- 質屋取締法 四二七
- 全 細則 四三二
- 公證人規則 四三四
- 官籤賣買者處分方 四五二
- 遺失物取扱規則 四五三
- 鐵道犯罪罰例 四五五
- 裁判所呼出遲不參罰則 四五七
- 墓地及埋葬取締規則違犯者處分 全

法 令 規 則 全 書 目 次 終

○徵兵令

明治廿二年一月
法律第壹號

第一章 總 則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役補充兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年四ヶ月海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在テハ第一補充兵役第二補充兵役トシ第一補充兵役ハ七箇年四ヶ月ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服シ第二補充兵役ハ一箇年四箇月ニシテ其年所要ノ第一補充兵員ニ超過スル者之ニ服ス又海軍ニ在テハ一箇年ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者之ニ服ス

第六條 國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵役トス

第一國民兵役ハ後備兵役及第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服シ第二國民

國民兵役ハ常備兵役後備兵役補充兵役及第一國民兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第七條 各兵役ノ期既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ學アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第八條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服 役

第九條 陸軍現役兵及補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵及補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵ハ徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラズ

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁(近衛師團ニ編入スル者ヲ除ク)ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地方ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス

第十條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアルヘシ但常

○徵兵令

○徵兵令

備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十一條 抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ服セシム

第十二條 二十歳ニ至ラズト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十三條 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立學校(小學校及養正學校ノ別科ヲ除ク)府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ(廿二年法律第一號廿六年法律第四號ヲ以テ改正追加)

一年志願兵ノ豫備役後備役年期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
滿十七歳以上二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス(同上)

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム(同上)

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備役後備役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス(同上)

第十四條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十五條 現役中殊ニ勳務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十六條 豫備兵後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勳務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十七條 第一補充兵及海軍補充兵ハ現役兵ノ補缺ニ充テ又戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス但第一補充兵ヲ以テ現役兵ノ補缺ニ充ツルハ其服役ノ初年ニ限ル
第一補充兵ハ平常ニ在テ百五十日以内教育ノ爲メ之ヲ召集ス其他勳務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

○徵兵令

○徵兵令

六

第二補充兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ第一補充兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ召集ス

第十八條 國民兵戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十九條 兵役ヲ免スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第二十條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第二十一條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十二條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十三條 第十三條一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿

二十八歳迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十八歳迄ニ止ミ又ハ二十八歳ヲ過

クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十一條

第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十一條第三項ニ依リ服役ス

ル者ハ此限ニ在ラス(同上)

學術修業ノ爲メ外國ニ在ル者朝鮮國ニ在ル者ヲ除クハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス

滿三十二歳迄ニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集シ三十二

歳ヲ過クル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一項ニ依リ一年志願

兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

第二十四條 餘人ヲ以テ代フ可ラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役ハ豫備兵後備兵ニ在ルト第一補充兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡圖點呼ノ爲メ召集スルトナシ

第四章 雜 則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄又第二十三條第一項ニ當ル者ニシテ二十八歳迄ニ事故止ニ同條第二項ニ當ル者ニシテ三十二歳迄ニ歸朝シタル者ハ十

○徵兵令

七

○徵兵令

八

四日以内ニ書面ヲ以テ 戸主ニ非ラサル者ハ其戸主ヨリ 本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未満ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルモノトス

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラズシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 服役年期ノ計算ハ現役除補充役及海軍後備役ニ在テハ

各其役ニ就ク年ノ十二月一日 第十三條第三項ニ依リ現役スル者ノ現役年期ノ計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月ヨリ起算ス ヨリ陸軍後備役ニ在テハ其役ニ就ク年ノ四月一日ヨリ起算ス但第七條ニ依リ延期シタルモノト雖モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ
現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役年期ニ算入セス其餘備役年期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ在テハ第六年目ノ三月三十一日迄海軍ニ在テハ第五年目ノ十一月三十日迄トス但第十條ニ依リ現役年期ヲ短縮シタルモノハ其現役ヲ短縮シ

タル場合ニ於ケル豫備役年期ニ應シ本項ニ準シテ計算ス
豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第六章 罰 則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若シクハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七章 附 則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ漸チ以テ施行ス其時期區域及特ニ徵集ヲ免除シ若クハ猶豫ス可キモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコト、ス

○徵兵令

九

○徵兵令

第三十五條 現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常備役年期ヲ通シテ十二箇年四箇月トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條ニ掲クル者其事故各本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故八箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第三十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間明治二十一年十一月一日起算スニ徵集セザル者ハ國民兵役ニ服セシム

第三十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セザル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲クル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲クル徵集猶豫ノ者其事故各本條ノ期限内ニ止ミタルモ仍ホ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ(全上)

第四十七條 第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ(全上)

第一項及第二項ノ届出ヲ爲サ、ル者及本令施行前舊令第三十五條第三

○徵兵令

十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス(全上)

附 則

此ノ法律ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス但現今ノ豫備徵員ハ従前ノ規程ニ依ル

●徵兵事務條例 明治廿九年三月 勅令第百十二號

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管及聯隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ

第二條 聯隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ

第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市北海道ニ在テハ區ニ以テ一區ト爲ス

一市ニシテ二聯隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス

數郡ニ一郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其ノ島廳ヲ置クモノ亦同シ東京市京都市大阪市ニ於テハ更ニ徵募區ヲ検査區ニ分チ區ヲ以テ検査區ト爲ス

第四條 步兵隊ノ兵員ハ聯隊毎ニ其ノ師管ノ一聯隊區ヨリ其ノ他ノ兵員ハ其ノ師管各聯隊區ヨリ徵集ス但要員ヲ充シ能ハサルトキハ他ノ聯隊區若クハ他ノ師管ヨリ其ノ不足ヲ補充スルコトヲ得

○徵兵事務條例

警備隊ノ兵員ハ其ノ警備隊區ヨリ徵集ス
海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル聯隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官師管徵兵官聯隊區徵兵官警備隊區徵兵官及聯隊區聯合徵兵署徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ内務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事務ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首座トシ其ノ管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

北海道ニ於テハ師團長及北海道廳長官ヲ以テ師管徵兵官ニ充テ師團長ヲ首座トシ其ノ管内徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 聯隊區徵兵官ハ聯隊區内徵募區毎ニ聯隊區司令官及島司郡市長北海道ノ區ニ在テハ區長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司郡市長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首座トシ其ノ区内徵募事務ヲ執行ス

東京市京都市大阪市ニ於テハ検査區毎ニ聯隊區司令官及區長ヲ以テ聯隊區徵兵官ニ充テ聯隊區司令官ヲ首座トシ抽籤事務ヲ除クノ外其区内

○徵兵事務條例

○徵兵事務條例

徵募事務ヲ執行ス

第九條 聯隊區聯合徵兵署徵兵官ハ東京市京都市大阪市ニ於テ徵募區毎ニ聯隊區司令官市參事會員タル府ノ書記官及各區長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ其ノ區内抽籤事務ヲ執行ス

第十條 第八條第九條ニ掲ケル徵兵官ノ外聯隊區内徵募區東京市京都市大阪市ニ在テハ檢査區毎ニ聯隊區徵兵參事官警備隊區内徵募區毎ニ警備隊區徵兵參事員ヲ置ク

第十一條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ徵兵令第二十二條ニ當ル徵集延期及徵集免除並ニ明治二十八年勅令第百二十六號第二條ノ徵集猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス

第十二條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ郡市名譽職參事會員ヲ以テ之ニ充ツ但市ニ於テハ其ノ市名譽職參事會員ニ於テ四名ヲ互選シ之ヲ定ム東京市京都市大阪市ノ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ市會ニ於テ其ノ區内ニ住スル市公民中撰舉權ヲ有スル者ヨリ四名ヲ撰舉シ之ヲ定ム其ノ任期ハ市會議員ノ例ニ依ル
島嶼ヲ置ク島嶼ノ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ島司

於テ各町村會議員中ヨリ四名ヲ撰ヒ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス其ノ任期ハ町村會議員ノ任期ニ依ル

北海道ノ郡又ハ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ徵募區毎ニ四名トシ北海道廳長官之ヲ命ス其ノ任期等ハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 毎年徵募事務執行中ハ師管徵兵醫官及聯隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ヲ置ク

師管徵兵醫官ハ師管内徵兵身體檢査ニ係ル事ヲ總管シ聯隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ハ徵兵身體ノ檢査ニ從事ス

第十四條 師管徵兵醫官ハ師團軍醫部長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ハ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部附軍醫一名ヲ以テ之ニ充ツルヲ例トス

第十五條 毎年徵募事務執行中ハ聯隊區徵兵署警備隊區徵兵署及聯隊區聯合徵兵署ニ事務員ヲ置キ該徵兵署ノ庶務ニ從事セシム

第十六條 聯隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ聯隊區書記又ハ警備隊書記貳名及島嶼郡市書記東京市京都市大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區書記二名若クハ三名ヲ以テ之ニ充ツ
聯隊區聯合徵兵署事務員ハ聯隊區書記二名府屬二名及各區書記二名若

○徵兵令事務條例

○徵兵令事務條例

クハ三名ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 毎年徵募事務執行中ハ地方醫師若干名ヲ以テ徵兵醫官補助員

トシ北海道廳長官府縣知事之ヲ命ス

徵兵醫官補助員ハ徵兵醫官ノ指揮ヲ受ケ身體検査ノ事ヲ補助ス

第三章 配 賦

第十八條 毎年徵集スヘキ現役兵及補充兵員數ハ上裁ヲ經テ陸軍大臣之

ヲ各師管ニ配賦ス

第十九條 師團長ハ第十八條ニ依リ現役兵及補充兵ノ要員ヲ各聯隊區又

ハ警備隊區ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十條 現役兵及補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ

定ム

第四章 徵 募

第二十一條 町村長町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長以下同シハ毎年戶籍簿ニ據リ徵兵適齡者

ヲ取調ヘ徵兵令第二十五條ノ屆書ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り二月十五日

迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後ニ之ヲ一募區ニ取懸メ前

年假決ノ諸名簿ト共ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出スヘシ

市長東京市京都市大阪市及北海道ニ在テハ區長以下同シハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決

ノ諸名簿ト共ニ之ヲ聯隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第二十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ各徵募區及検査區ニ聯隊區徵兵

署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ク但土地廣濶壯丁多數ノ徵募區ニ於テハ二

箇所以上ノ地ニ逐次開設スルコトヲ得

東京市京都市大阪市ニ於テハ抽籤執行ノ爲メ別ニ徵募區ニ聯隊區聯合

徵兵署ヲ設ク

第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵

署開設ノ日割ヲ定メ聯隊區司令官警備隊司令官ハ師團長ニ島司郡市長

ハ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ

聯隊區聯合徵兵署開設ノ日割ハ聯隊區司令官ヨリ府ノ書記官ニ協議シ

之ヲ定メ聯隊區司令官ハ師團長ニ府ノ書記官ハ府知事ニ申報シ且府ノ

書記官ハ徵兵署開設ノ日割及其ノ場所ヲ區長ニ達スヘシ

島司郡市長ハ検査抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ豫メ聯隊區徵兵參

事員又ハ警備隊區徵兵參事員ニ通知シ且其ノ管内ニ告示スヘシ

第二十四條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署

ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ其ノ検査ハ徵兵官及徵兵參事員ノ面前ニ

於テスルモトス

○徵兵事務條例

○徵兵事務條例

十八

第二十五條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス

第二十六條 島司郡市長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審察ニ任ス

第二十七條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵集延期徵集猶豫徵集免除及兵役免除ノ處分ヲ爲シ又壯丁名簿ヲ以テ徵集名簿徵集延期名簿徵集猶豫名簿徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ作ルヘシ

第二十八條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵集區毎ニ體格ノ等位及兵種ヲ分テ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ但東京市京都市大阪市ニ於テハ聯隊區聯合徵兵署ニ於テ之ヲ行フ

抽籤ハ徵兵官及徵兵參事員ノ面前ニ於テ抽籤總代人ノ之ヲ爲スモノトス抽籤總代人ハ徵集區又ハ検査區毎ニ籤丁ノ選ヲ以テ二名若クハ三名ヲ出スモノトス

第二十九條 前條ノ徵兵官ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿ニ通テ作ルヘシ

第三十條 抽籤終ルトキハ抽籤名簿及徵集名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ領シ抽籤名簿徵集延期名簿徵集猶豫名簿徵集免除名簿及兵役免除名簿ハ島司郡市長之ヲ領シ島司郡市長役所東京市京都市大阪市及北海道廳ノ區ニ在テハ區役所以下同ニ備置クヘシ但東京市京都市大阪市ニ於テハ市長ノ領スヘキ抽籤名簿ハ府ノ書記官之ヲ領シ府廳ニ備置クヘシ

第三十一條 各徵集區ノ抽籤終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ第十九條ノ配賦ニ基キ現役兵徵集及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又徵集名簿ヲ以テ現役兵名簿補充兵名簿及要員超過名簿ヲ作ルヘシ第三十二條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵名簿ヲ各聯隊長聯隊長ヲ爲サザルニ在テハ其隊長及海兵團長ニ交付シ且現役兵ニ徵集スヘキ者補充兵ニ編入スヘキ者ノ順序ヲ島司郡市長ニ通知スヘシ但東京市京都市大阪市ニ在テハ府ノ書記官ニ通知スヘシ

抽籤名簿及補充兵名簿ハ之ヲ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ備置キ要員超過名簿ハ島司郡市長ニ交付シ島司郡市長役所ニ備置クヘシ

第三十三條 第二十七條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官第三十一條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區司令官又ハ警備

○徵兵事務條例

十九

○徵兵事務條例

二十

隊司令官各其ノ證書ヲ附與ス但徵集免除ノ者并ニ要員ニ超過シタル者ニハ證書ヲ附與セス第三十四條徵集事務終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り師團長ニ差出シ師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上スヘシ

第五章 裁決

第三十五條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第三十六條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ現役兵徵集補充兵編入要員超過徵集免除及兵役免除ノ事ヲ裁決ス

第三十七條 徵集延期徵集猶豫徵集免除及兵役免除ノ裁決ハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ其ノ他ノ裁決ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ爲ス

第三十八條 壯丁若クハ其ノ家族ニ於テ徵兵令第二十二條及明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ關スル聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルヲ得但訴願ノ爲ニ裁決ノ執行ヲ停止セス

本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ其期日ヲ過タルモノハ受理セス

第三十九條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願ヲ爲サントスル者ハ其訴願書ニ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戸主三名ノ保證書ヲ添ヘ其ノ裁決ヲ爲シタル徵兵官ヲ經由シテ差出スヘシ

第四十條 徵兵官第三十九條ノ訴願書ヲ受領シタルトキハ之ニ前裁決ニ關スル書類ヲ添ヘ上級ノ徵兵官ニ差出スヘシ

第四十一條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルヲ許サス

第六章 現役兵及補充兵

第四十二條 現役兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム警備隊諸兵ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年六月一日トシ砲兵輸卒ノ入營ハ三期ニ分チ其第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年四月一日第三期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒ノ入營ハ四期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年十二月一日第二期ハ翌年三月一日第三期ハ同年六月一日第四期ハ同年九月一日トス

○徵兵事務條例

二十一

〇徴兵事務條例

二十二ノ一

仙臺札幌前金澤各衛戍地ニ於テハ砲兵輸卒ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年四月一日第二期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年三月一日第二期同年六月一日第三期ハ同年九月一日トス戰時若クハ事變ニ際シテハ第二期以下ノ入營期日ヲ變更スルコトヲ得

第四十三條 現役兵入營ノトキハ先ツ聯隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ入營兵引率員之ヲ入營地ニ引率シ聯隊區司令部所在ノ入營地ニ在テハ聯隊區司令部ヨリ直ニ當該隊長ニ交付ス但入營兵五人未滿ナルトキハ直ニ入營地ニ單行セシム
海軍現役兵ハ其ノ集合地ニ引率シ入營兵受領員ニ交付スルモノトス但入營兵引率員出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム

第四十四條 現役兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營延期ヲ願フ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許スヘシ

其ノ延期ヲ願フ者ハ願書ニ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ其ノ父母疾病危篤ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ差出スヘシ

第四十五條 現役兵入營前ハ第四條ノ區域外ニ轉籍戶籍上本人ノ出入スルモ

所屬ノ隊籍ヲ變更セズ徴兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者ハ身體檢査ヲ行ヒ更ニ隊籍ヲ定ムルモノトス但第四條ノ區域外ニ轉籍シタル者ハ其地ニ於テ身體檢査ヲ行ヒ隊籍ヲ定ム

第四十六條 現役兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ入營シ難シト認メタル者又ハ入營ノ後翌年一月三十一日前ニ死亡シタル者若クハ一時服役ニ堪ヘサル者又ハ常備後備ノ服役及永久服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ其ノ徵募區同兵種ノ第一補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ補充シ若シ其ノ徵募區ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ聯隊區内他ノ徵募區ヨリ補充シ其ノ配賦ハ各徵募區補充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム但警備隊諸兵及砲兵輸卒輜重輸卒ニシテ入營スヘキ月ノ二十日迄ニ本文ノ事故ヲ生シタル者アルトキハ次期入營スヘキ者ヲ繰上ケ入營セシム其ノ最終期ニ在テハ前期ニ繰上ケタル缺員ト其ノ期ノ缺員ハ第一補充兵ヲ以テ補充ス

第四十七條 現役兵入營前痲疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ兵役ヲ免ス但徴兵令第

〇徴兵事務條例

二十二ノ二

○徵兵事務條例

二十二ノ三

第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者其ノ年徵募事務終結前ハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 現役兵入營前徵兵令第二十二條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ徵集ヲ延期ス其ノ願書ニハ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ現役兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ但町村ニ在テハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス
島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覆シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付スヘシ

第四十九條 現役兵入營前及補充兵補充兵證書附與後其ノ年十一日以前ノ者以下同シ轉籍シタルトキハ十四日以内ニ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ但町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ

其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通報スヘシ
本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十條 現役兵入營前及補充兵寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ復歸シタルトキ亦届出ヘシ但町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタルトキハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七章 雜則

第五十一條 徵兵令第十二條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其ノ願書ニ戸主或ハ後見人連署シ身元證書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ九月一日以前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ海兵團ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但軍隊又ハ海兵團遠隔ノ地ニ居住ノ者ハ徵兵検査ノ際聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ申立テ身體検査ヲ受ケ合格ノ者ハ合格證書ヲ添ヘ願出ルコトヲ得検査ノ爲メ往復旅費及入營旅費ハ自辨トス

第五十二條 第五十一條ニ依リ服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出ヘシ

○徵兵事務條例

二十三

○徵兵事務條例

二十四

第五十三條 他ノ徵集區ニ寄留シ其地ニ於テ身體檢査ヲ受ケンコトヲ冀望スル者ハ三月一日迄 本籍地ノ島司郡市長ニ願出ヘシ島司郡市長ニ差出ス願書ニハ町村長ノ與書附印ヲ受クヘキモノトス島司郡市長其ノ願ヲ許可シタルトキハ之ヲ本人寄留地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ
本條ノ願出已ムヲ得ザル事故ノ爲三月一日ヲ過クルモノハ島司郡市長ヨリ本人寄留地ノ島司郡市長ニ協議シ徵募上故障ナキモノニ限り許可スヘシ

第五十四條 徵兵令第二十二條ニ當ル者ハ同徵集區内其ノ年ノ徵集ニ照スヘキ壯丁ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ三月一日迄ニ 三月一日後抽籤ニ照都度以 聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ但其ノ事故二年以下同シ 故ノ生シタル者ハ其ノ 上繼續スル者ハ毎年願出テ其三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ本文ノ保證書ヲ添ヘ届出ヘシ

前項ノ願書及届書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十五條 徵兵令第二十三條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ添ヘ三月一日迄ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ
公使領事及貿易事務官ヲ置カサル國ニ在ル者ハ其ノ徵集猶豫願書ニ海

外旅券ヲ受取リタル官廳ノ證明書ヲ添ヘ差出スヘシ公使領事及貿易事務官ヲ置キタル國ニ在ル者ト雖徵集猶豫願書ヲ差出ストキ未タ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ得ザルトキハ之ニ換テ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ承認書ヲ添ヘ差出シ置キ追テ證明書ヲ差出スコトヲ得
本條ノ願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十六條 明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ毎年三月一日迄ニ聯隊區徵兵官ニ願出ヘシ

前項ノ願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十七條 徵兵令第二十三條第一項ノ事故止ミタル者ノ届書及同條第二項ノ歸朝シタル者ノ届書ハ町村長ヨリ其ノ年ノ壯丁名簿進達前ニ在テハ其ノ名簿ト共ニ進達後ニ在テハ受領ノ日ヨリ三日以内ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ差出スヘシ

市長ハ前項ノ届書ヲ聯隊區徵兵署若クハ聯隊區聯合徵兵署開設ノトキ同署ニ提出スヘシ

第五十八條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ身體檢査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵 年齢十九歳以下ノ者ヲ除ク 出願中ノ者ハ書面ヲ以テ檢査當日迄ニ島司郡市長ニ届出

○徵兵事務條例

二十五

○徵兵事務條例

二十六

ヘシ其疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ
 島司郡長ニ差出ス届書ニハ町村長ノ奥書證明ヲ受クヘキモノトス
 本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第五十九條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ其届書ニハ市町村長ノ奥書證明ヲ受クヘキモノトス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十條 徵兵署ノ諸費壯丁及抽籤總代人ノ旅費現役兵入營ノ旅費徵兵參事員ノ手當金旅費徵兵醫官補助員ノ給料旅費ハ官給ス

第六十一條 第七師團ノ兵員ハ其ノ師管內徵兵令施行地ヨリ徵集ス但醫員ヲ充シ能ハサルトキハ他ノ師管ヨリ其ノ不足ヲ補充スルコトヲ得

第六十二條 島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長地方長官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第六十三條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ寄留地最寄ノ徵募區ニ於テ身體檢査ヲ受クルコトヲ得其ノ願出手續及取扱ハ第五十三條ノ例ニ準ス

第六十四條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其ノ年又ハ翌年ノ徵集ニ應ゼシム但年齡二十六歳ヲ過キ轉籍シタル者ハ此限ニ在ラス

附 則

第六十五條 近衛師團ノ兵員ハ當分第一師管ヨリ徵集ス

第六十六條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ未ダ郡制ヲ施行セサル郡ニ在テハ其ノ郡内ニ於テ四名ヲ選舉シ當選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ選舉人被選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル

第六十七條 本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

○徵兵事務條例補則 明治廿八年十一月一日 勅令第百五十四號

第一條 徵兵事務條例中第七師管ニ實施シ難キ諸件ハ當分本則ニ依ル

第二條 第七師管ニハ旅管徵兵區及之ニ屬スル職員ヲ置カス

第三條 札幌區函館區ハ各之ヲ徵募區ト爲ス

第四條 大隊區徵兵官ハ大隊區內徵募區毎ニ大隊區司令官及郡區長ヲ以テ之ニ充テ大隊區司令官ヲ首座トシ其ノ區內徵募準備事務及徵募事務ヲ執行ス

○徵兵事務條例補則

二十七

○徵兵事務條例補則

二十八

- 其ノ徵募事務ニ關シテハ徵兵事務條例中旅管徵兵官ニ係ル規程ニ從フ
- 第五條 大隊區徵兵參事員ハ徵募區毎ニ四名トシ北海道廳長官之ヲ命ス其ノ任期等ハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ依ル
- 第六條 大隊區徵兵參事員ハ徵兵事務條例第十一條ニ掲クルモノ、外明治二十八年勅令第百二十六號第二條ノ徵集猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス
- 第七條 毎年徵募準備事務及徵募事務執行中ハ徵兵事務條例第十七條ニ掲クルモノ、外北海道廳屬若干名ヲ以テ大隊區徵兵署事務員ト爲ス
- 第八條 毎年徵募事務執行ノトキハ大隊區聯合徵兵署ヲ設ク
- 大隊區聯合徵兵署ノ數及其ノ場所ハ屯田兵司令官及北海道廳長官協議ノ上之ヲ定ム
- 第九條 明治二十八年勅令第百二十六號第二條ニ當ル者ハ其ノ移住年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ徵兵事務條例第五十九條中徵兵令第二十二條ニ當ル者ノ例ニ依リ毎年願出ヘシ
- 第十條 壯丁若クハ其ノ家族ニ於テ前條徵集猶豫ニ對スル大隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ徵兵事務條例第六章ノ規程ニ依リ訴願スルコトヲ得

- 第十一條 大隊區徵兵官ノ裁決ニ對スル訴願ハ直ニ師管徵兵官ニ提出スルモノトス
- 第十二條 徵兵事務條例第五十二條ノ永久兵役ニ堪ヘサル者及第五十三條ノ徵集延期ニ屬スル者ハ屯田兵司令官之ヲ處分ス
- 第十三條 第七師管ニ在テ徵兵事務條例中師團長ノ職務ハ屯田兵司令官、府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官、市長市書記ノ職務ハ區長區書記、町村長ノ職務ハ戶長之ヲ行フ
- 徵發令 明治十五年八月十二日 布告第四十三號
- 第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ準ス
- 第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ
- 第三條 左ニ列記スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス
 - 一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官
 - 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長
 - 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣隊長若クハ

○徵發令

二十九

○徵發令
操練及航海ノ艦隊司令官ノ艦長
第四條 徵發ス可キモノ、種類ニ依リ徵發區ニ準ス之ヲ定ムルコト左ノ如シ

三十

- 一 第十二條第一項ハ
- 二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ
- 三 第十二條第四項以下各項及第十三條各項ハ
- 四 船舶會社所有ノ船舶及鐵道會社所有ノ汽車ハ
- 府縣 郡區 町村 會社
- 第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル
- 第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ
- 第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス
- 第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス
- 第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノト若クハ其時刻ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戶長他ノ

- 方法ヲ以テ調進シ爲メニ爲シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ
- 第十條 徵發ヲ課セラレタルモノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得
 - 第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證書ヲ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ
 - 第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ
 - 一 米麥秣藜鹽味噌醬油漬物梅干及薪炭
 - 二 乘馬馱馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及器具
 - 三 人夫
 - 四 宿舍廐園及倉庫
 - 五 飲水石炭
 - 六 船舶
 - 七 鐵道汽車
 - 八 演習ニ要スル地所
 - 九 演習ニ要スル材料器具
 - 第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外

三十一

○徵發令

徵發ス可キモノ左ノ如シ

但平時ノ演習及行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス

- 一 造船所工作所及軍事ノ工作ニ要スル材料器具
- 二 職工傭夫洗濯人ノ類
- 三 被服器具草鞋兵器彈藥船具藥劑治療器械及綑帶具
- 四 水車搗春ノ類
- 五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本文タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 公務ニ屬スル麻署
- 二 皇族ノ邸宅
- 三 外國公使館領事館及其所屬館

四 鐵道電信郵便使用ノ建造物

五 陸海軍將校並ニ同等官現住ノ家屋

六 博物館書籍館

七 病院盲啞院乘兒院

八 學校但臨戰台圍地境內ニ在リテハ此限ニアラス

九 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲グルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ

供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニアラス

第十七條 第十二條第二項ニ掲グルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地

ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時

若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者

ノ起臥及營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナル

モ旅店等ハ此限ニアラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ雖シ

故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ

○徵發令

○徵發令

三十四

特ニ其場所ヲ指定スルコトアル可シ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サズ廐園倉庫亦同シ

第二十二條 宿舍廐園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍二日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及第七項ニ掲グルモノハ其業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス

但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲グル者ヲ業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及舢舨ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル機車其屬具鐵道建築所用ノ材料器

具及業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲グルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合國地境内ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送費ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セズ其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戶長ニ届出可シ其届出ハ徵用済引渡ノ後左ノ期限ヲ越ヘ又ハ期限中持主若クハ業者ニ於テ使用セントキハ無効トス

○徵發令

三十四

○徵發令

三十六

一 西洋 船舶

七日間

二 地所

評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件

一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ケ年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者ト各個ニ分別シテ徵用シタルモハ其郡區平常ノ賃價及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラス賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ズ

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス
第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

- 一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃
- 二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乗載量五分ノ三ニ滿テタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿テサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃
- 三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料船船賃費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

○徵發令

三十七

○徵發令

三十八

- 第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ舢舨ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス
- 第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス
- 第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス
- 第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限り賠償ス此金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス
- 第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス
- 第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セザルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス
- 第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償ニ第三十六條ヲ適用ス

- 第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス
 - 第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ忌避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 - 第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サ、ルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 - 其懲息ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス
- 登錄稅法 明治二十九年三月 法律第二十七號
- 登錄稅法
- 第一條 登錄稅法ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス
 - 第二條 地所、建物ノ登記ヲ請フ時ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ム可シ
- 一 買受人 賣買代價千分ノ二十

○登錄稅法

三十九

○登録稅法

四十

- 二 家督相續人(戸主ノ死亡、失踪、離縁、跡相續人共) 時價相當價格千分ノ五
但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタル時ハ時價價格千分ノ十トス
 - 三 遺産相續人 時價相當價格千分ノ十
 - 四 贈與又ハ遺贈ヲ受ケル者 時價相當價格千分ノ二十
 - 五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五
 - 六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五
 - 七 強制管理ノ申立人又ハ假差押、假處分ノ申立人 價格千分ノ三
 - 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金十錢
 - 九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲メ登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ二
- 六號及ビ七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモハ時價相當價格ニ依ル
- 第三條 船舶ノ登記ヲ請フ時ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ
- 一 買受人 賣買代價千分ノ十
 - 二 家督相續人(戸主ノ死亡、失踪、離縁、跡相續人共) 時價相當價格千分ノ二

但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルモハ時價相當價格千分ノ五トス

- 三 遺産相續人 時價相當價格千分ノ五
 - 四 贈與又ハ遺贈ヲ受ケル者 時價相當價格千分ノ十
 - 五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五
 - 六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五
 - 七 假差押、假處分ノ申立人 價格千分ノ三
 - 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金十錢
 - 九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲メ登記ヲ請フ者 地價相當價格千分ノ一
- 六號及ビ七號ノ場合ニ於テ價格ノ定マラサルモノハ時價相當價格ニ依ル
- 第四條 船舶ノ登記ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ
- 一 新規登録 (十五噸未満の船舶) 金五拾錢
 - 二 轉籍 (十五噸以上の船舶) 金拾錢
- 登録稅法 四十一

○登録税法

四十二

- 三 除籍 （十五噸未満の船舶）
（十五噸以上の船舶） 金五 錢
每拾兩金五 錢
- 四 登記事項ノ變更 每件金十錢
壹號、二號及三號ノ場合ニ於テ十五噸以上ノ船舶ヲ登録スルトキハ十噸未満ノ端數ハ十噸トシテ計算ス
- 第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スル時ハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可シ
 - 一 新規登録 地價千分ノ二十
 - 二 地價ノ設定（復舊トモ） 地價千分ノ十
 - 三 地價ノ修正 地價千分ノ十
 - 四 開墾 地價千分ノ十
 - 五 鐵下年期附與 地價千分ノ十
 - 六 地價据置年期附與 地價千分ノ十
 - 七 鐵下年期ノ繼年期附與 地價千分ノ十
 - 八 新開墾租年期ノ繼年期附與 地價千分ノ十
 - 九 低價年期ノ附與 地價千分ノ十
 - 十 段別ノ増減 地價千分ノ五
 - 十一 分裂又ハ合併 地價千分ノ五

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地々價ノ比準ニ依ル

第六條 左ノ事項ニ付キ登記ヲ受クル商事會社ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可シ

- 一 合名會社、合資會社設立 資本金額千分ノ二
- 二 合名會社、合資會社資本増加 増加資本金額千分ノ二
- 三 合名會社、合資會社支店設置 會社資本金額萬分ノ二
- 四 株式會社設立 設立初度ノ拂込資本金額千分ノ三
- 五 株式會社設立後ノ資本金拂込 每拂込金額千分ノ三
- 六 株式會社支店設置 現在拂込資本金額萬分ノ三
- 七 登記事項ノ變更 （資本金の増加及追
加拂込登記を除く）追加 每一件金三圓
- 八 解散 每一件金壹圓
- 第七條 左ノ事項ニ附キ辨護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可シ
 - 一 新規登録 金二十圓
 - 二 登録替 金拾圓
 - 三 取消ノ請求 金壹圓
- 第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スル時ハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ニ

○登録税法

四十三

○登録税法

左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可シ

- 一 新規登録
 - 醫師 金二拾圓
 - 藥劑師 金拾二圓
 - 獸醫 金拾二圓
 - 蹄鐵工 金五圓
 - 假開業醫師 金五圓
 - 假免許獸醫 金三圓

二 登録事項ノ變更 每一件金五拾錢

第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スル時ハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可シ

- 一 新規登録
 - 甲種船長 金拾五圓
 - 甲種一等運轉手 金拾圓
 - 甲種二等運轉手 金六圓
 - 甲種一等機關手 金拾五圓
 - 甲種二等機關手 金拾圓

○登録税法

- 乙種船長 金拾圓
- 乙種一等運轉手 金六圓
- 乙種二等運轉手 金四圓
- 乙種一等機關手 金拾圓
- 乙種二等機關手 金六圓
- 小形船機關手 金四圓
- 水先人 金二拾圓

二 登録事項ノ變更 每一件金五拾錢

第十條 版權ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可シ

- 一 普通ノ文書圖書 一種毎ニ金五圓
- 二 冊號ヲ追ヒ順次出版スル文書圖書 一冊毎ニ金二圓五拾錢
- 三 雜誌ノ類 一冊毎ニ金五拾錢
- 四 興行權ヲ併有スル脚本 一種毎ニ金五拾圓
- 五 興行權ヲ併有スル樂譜 一種毎ニ金二拾圓
- 六 寫眞 一版毎ニ金五圓

第十一條 特許ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ム可シ

○登録稅法

- 一 新規登録
 - 五年ノ特許 金貳拾圓
 - 十年ノ特許 金三拾圓
 - 十五年ノ特許 金四拾圓
 - 二 賣與、讓與又ハ共有
 - 每一件金十圓
 - 三 書入契約
 - 每一件金五圓
- 第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ
- 一 新規登録
 - 三年ノ專用 物品一類毎ニ金三圓
 - 五年ノ專用 物品一類毎ニ金五圓
 - 七年ノ專用 物品一類毎ニ金七圓
 - 十年ノ專用 物品一類毎ニ金拾圓
 - 二 賣與、讓與又ハ共有
 - 物品一類毎ニ金貳圓
 - 三 書入契約
 - 物品一類毎ニ金壹圓
- 第十三條 商標ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ

○登録稅法

- 一 新規並續用登録
 - 商品一類毎ニ金貳拾圓
 - 二 賣與、讓與又ハ共有
 - 商品一類毎ニ金十圓
- 第十四條 礦業ニ關シ左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ記名簿ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ
- 一 試掘 金五拾圓
 - 二 採掘 金百圓
 - 三 試掘増區及増減區ニ係ル訂正 金廿五圓
 - 四 採掘増區及増減區ニ係ル訂正 金五拾圓
 - 五 買受、讓受 金五拾圓
 - 六 採掘權書入又ハ試掘延期 金拾五圓
 - 七 減區ニ係ル訂正 金五圓
 - 八 鑛區ノ合併又ハ分割 金拾圓
 - 九 廢業 金五圓
- 第十五條 (三十年三月公布ニテ刪除)
- 第十六條 國債證券ノ記名登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ
- 一 新規記名 額面金額千分ノ二

○營業稅法

四十八

二 左ニ列記スルモノ

額面金額千分ノ一

記名變更
枚數變更
記名除却

第十七條 登録稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ム可シ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ
現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條 登録稅ハ總テ金壹錢以上トス壹錢未滿ノ端數ハ壹錢トシテ之
ヲ計算ス

第十九條 (三十年三月三十日公布ニテ刪除)

附 則

第二十條 本法ハ明治廿九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規
定スル登録稅ト重復スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●營業稅法 明治三十年三月
法律第三十三號

第一條 左ニ掲クル營業ヲ爲ス者ニハ營業稅ヲ課ス

- 一 物品販賣業
- 一 銀行業
- 一 製造業
- 一 運河業
- 一 船舶碇繋業
- 一 勞力請負業
- 一 席貸業
- 一 公ナル周旋業
- 一 仲買業
- 一 保險業

一 金錢貸附業

一 物如貸附業

一 製造業

一 運送業

一 倉庫業

一 運河業

一 櫛橋業

一 船渠業

一 船舶碇繋業

一 貨物陸揚場業

一 土木請負業

一 勞力請負業

一 印刷業

一 寫眞業

一 席貸業

一 旅人宿業

一 料理店業

一 公ナル周旋業

一 代辨業

一 仲立業

一 仲買業

第二條 營業稅ヲ課ス可キ物品販賣業ハ一定ノ店舗其他營業場ヲ設ケ物

品ノ卸賣又ハ小賣ヲナスモノヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セザルモ仍物品販賣業ト見做

一 一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スル事ナク原料ヲ供給シ工錢ヲ支拂

ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スルモノ

二 一定ノ製造場ヲ設ケズ店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲

ス者

三 牧場ニ非ザル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ

賣リ又ハ鶏卵、牛乳等其產物ヲ販賣スル者

四 魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者

○營業稅法

○營業稅法

五十

- 五 動植物其他普通ニ物品、稱セザルモノヲ販賣スル者
一箇年ノ賣上金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セズ
- 第四條 營業者其製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ及ビ別ニ營業場ヲ設ケ其製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセズ
- 第三條 營業稅ヲ課ス可キ金錢貸付業及ビ物品貸付業ハ一定ノ店舖其他ノ營業場ヲ設ケ貸附ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セザルモノ、貸附ヲ爲スモ亦同ヲ
- 資本金額五百圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セズ
- 第四條 營業稅ヲ課スベキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ
瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及器物、器械ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白爲碎シ又ハ染物、洗濯ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス
資本金額五百圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用セザル者ニハ營業稅ヲ課セズ
- 第五條 運賃又ハ手数料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲナシ又ハ其取扱ヲナス者ヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス但シ雇人二人以上ヲ使用セザル者ニハ營業稅ヲ課セズ

○登錄稅法

五十一

- 第六條 倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス
- 第七條 印刷業、寫眞業ニシテ職工雇人ヲ通シテ二人以上ヲ使用セザルモノ及ビ土木請負業、勞力請負業ニシテ請負金額一箇年千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セズ
- 第八條 賃料又ハ其他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課ス但シ建物賃賃價格拾五圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セズ
- 第九條 營業稅ヲ課スベキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ハラズ旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ雇人三人以上ヲ使用スル者トス但シ木賃宿ニハ營業稅ヲ課セズ
- 第十條 營業稅ヲ課スベキ料理店業ハ雇人三人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スルモノトス
- 第十一條 左ニ掲グル者ハ營業稅ヲ課セズ
一 政府ヨリ發行スル印紙、切手類ノ賣捌
二 自己ノ採掘又ハ採取シタル礦物ノ販賣
三 度量衡ノ製作修覆販賣

○營業税法

營業者廢業シタル時ハ其際政府ニ届出可シ

第十四條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課税標準ニヨリ各別ニ營業税ヲ課ス但シ課税標準トナルベキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其一ニ就テ計算ス其税率與ナルトキハ重キニ從フ

第十五條 物品販賣業、土木請負業、勞力請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、公ナル周旋業、代辦業、仲買業、仲立業ハ各店舗其他ノ營業場毎ニ營業税ヲ課ス

前項ニ掲ケザル營業ニシテ店舗其他ノ營業場數箇所アル時其資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業税ヲ課ス其資本ヲ區分セザルモノハ合算シテ之ヲ課ス

第十六條 第十三條ニ依リ届出可キ課税標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但シ開業シタル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

- 一 賣上金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年中ニ開業シタルモノハ豫算ニ依ル
 - 二 資本金及建物賃借價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル
 - 三 從業者ハ前年ニ於ケル最多數ノトキニ依ル
- 資本金額ノ算定方法ハ勅令ヲ以テ之レヲ定ム

第十七條 營業者ノ申告シタル資本金額ヲ以テ不相當ト認ルトキハ政府ハ其營業ノ收入金額ヲ調査シ相當ノ營業費ヲ控除シ其殘額ノ廿倍ヲ以テ資本金額ヲ算定スル事ヲ得

第十八條 建物賃借價格ハ店舗其他營業用ノ土地、家屋ノ借料ニ相當スルモノトス但シ住居ニ供スルモノ其他直接ニ營業ニ使用セザルモノアルモ同一區内ニアリテ自己ノ所用ニ係ルモノハ營業用トシテ計算ス

借家ノ場合ニ於テハ何等ノ名義ヲ用ルニ係ハラズ土地、建物ノ賃借上借主ヨリ貸主ニ支拂フモノヲ以テ建物賃借價格ヲ計算ス

借家ニアラザル場合ニ於テハ近傍借家ノ借料ニ標準シテ建物賃借價格ヲ定ム近傍ニ照準スベキ借家ナキトキハ其土地、家屋ノ時價ヲ各別ニ算定シ土地ハ其百分ノ五、家屋ハ百分ノ十ヲ以テ其賃借價格ヲ定ム無償ノ借家ニ付テモ亦同シ

營業者ノ申告シタル賃借價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ前項ノ算定方法ニ依リ其賃借價格ヲ定ムル事ヲ得

第十九條 名義ノ何タルヲ問ハズ總テ營業ニ從事スルモノハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業者ノ家族ヲ除ク

○營業税法

第二十條 營業税ハ年額ヲ二分シ其年五月十一月ヲ以テ納期トス但シ廢業

○營業税法

スルトキハ未納ノ税金ハ即納トス

第廿一條 新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其營業稅ヲ徵收ス

左ニ掲タル營業ハ開業ノ翌年ヨリ尙三ケ年間其營業稅ヲ徵收セズ但シ

此稅法施行前ヨリ營業スル者ニシテ其開業ノ翌年ヨリ三ケ年ニ滿タザ

ルトキハ本項ニ準據スル事ヲ得

銀行業 保險業 倉庫業 製造業 印刷業 運送業

運河業 船渠業 船舶碇繋場業

第廿二條 同一ノ場所ニ於テ六ケ月以内ニ前ノ營業者ノ同一ノ營業ヲ開

始スルモノハ其月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第廿三條 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ム可キ事實アル時ハ納期ニ於

テ現ニ營業スルモノヨリ營業稅ヲ徵收ス

第廿四條 營業者廢業スルトキハ其廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス但シ他ニ

其營業ヲ繼續スルトキハ前條ニ同シ

第廿五條 第廿二條及第廿三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第廿一條ノ期間

内ニアルトキハ其期間ハ後ノ營業者ニ及ブモノトス

第廿六條 政府ニ於テ營業者ノ申告ヲ不相當ト認メ資本金額又ハ建物賃

賃價格ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スベシ

第廿七條 前條ノ算定ニ對シ異議アル時ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二日以

内ニ申立テ再審査ヲ求ムル事ヲ得但シ此場合ニ於テ政府ハ税金ノ徵收

ヲ猶豫セズ

第廿八條 第十八條第三項ノ建物賃賃價格算定ニ付異議ノ申立アリタル

時ハ評價人ヲ定メ之レヲ評價セシム評價一致セザル時ハ其平均ヲ以テ

之レヲ定ム

第廿九條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ政府ニ其由ヲ申立ルコトヲ得

一 課稅ノ標準タル資本金額、賣上金額、報償金額又ハ建物賃賃價格

半額以上ヲ減シタルトキ

二 課稅ノ標準タル從業者ノ人員屆出人員二分ノ一以下ニ減シタル時

第三十條 政府ハ前條ノ申出ニ由リ營業者ノ狀況ニ照シ營業稅ヲ減額ス

ルノ必要アリト認ル時ハ翌年一月迄税金ノ徵收ヲ猶豫スル事ヲ得

第卅一條 政府ハ第廿九條ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課稅標準ヲ查覈

シ左ノ場合ニ該當スルトキハ税金ヲ減額スル事ヲ得

一 課稅ノ標準タル賣上金額、請負金額、報償金額ハ前々年中ノ總額

資本金額、建物賃賃價格ハ前々年中ノ平均額ヲ半額ニ達セザルト

キ

○營業税法

○營業税法

二 課税ノ標準タル從業者ノ人員其最多數ノ時ニ於テ届出人員ノ二分ノ一ニ達セザルトキ

課税標準ノ課税最低限以下ニ減シタル場合ニ於テモ仍其割合ヲ以テ税金ヲ徴收ス

第卅二條 第一條ニ掲グル營業者ハ貨物ノ仕入、賣上、受人、貸附、廻送、從業者ノ人員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲メ帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載ス可シ

第卅三條 收税官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査シ又ハ營業者ニ尋問スル事ヲ得

第卅四條 第十三條ノ届出ヲ爲サス若シハ虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若シハ虚偽ノ記載ヲ爲シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス其脱税シタル者ハ脱税金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第卅五條 此税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪、減輕、再犯加重、敍罪俱發ノ例ヲ用キズ

第卅六條 府縣ハ此税法ニ依リ納税義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本税十分ノ二以内ノ附加税ヲ課スル事ヲ得此附加税ノ外府縣税又ハ地方

第十七條 營業者ノ申告シタル資本金額ヲ以テ不相當ト認ルトキハ政府ハ其營業ノ收入金額ヲ調査シ相當ノ營業費ヲ控除シ其殘額ノ廿倍ヲ以テ資本金額ヲ算定スル事ヲ得

第十八條 建物賃賃價格ハ店舗其他營業用ノ土地、家屋ノ借料ニ相當スルモノトス但シ住居ニ供スルモノ其他直接ニ營業ニ使用セザルモノアルモ同一區内ニアリテ自己ノ所用ニ係ルモノハ營業用トシテ計算ス

借家ノ場合ニ於テハ何等ノ名義ヲ用ルニ係ハラズ土地、建物ノ賃借上借主ヨリ貸主ニ支拂フモノヲ以テ建物賃賃價格ヲ計算ス

借家ニアラザル場合ニ於テハ近傍借家ノ借料ニ標準シテ建物賃賃價格ヲ定ム近傍ニ照準スベキ借家ナキトキハ其土地、家屋ノ時價ヲ各別ニ算定シ土地ハ其百分ノ五、家屋ハ百分ノ十ヲ以テ其賃賃價格ヲ定ム無償ノ借家ニ付テモ亦同シ

營業者ノ申告シタル賃賃價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ前項ノ算定方法ニ依リ其賃賃價格ヲ定ムル事ヲ得

第十九條 名義ノ何タルヲ問ハズ總テ營業ニ從事スルモノハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業者ノ家族ヲ除ク

第廿條 營業税ハ年額ヲ二分シ其年五月十一月ヲ以テ納期トス但シ廢業

○營業税法

○營業税法

二 課税ノ標準タル従業者ノ人員其最多數ノ時ニ於テ届出人員ノ二分ノ一ニ達セザルトキ
課税標準ノ課税最低限以下ニ減ヲタル場合ニ於テモ仍其割合ヲ以テ税金ヲ徴收ス

第卅二條 第一條ニ掲グル營業者ハ貨物ノ仕入、賣上、受人、貸附、廻送、従業者ノ人員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニシル爲メ帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載ス可シ

第卅三條 收税官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査シ又ハ營業者ニ尋問スル事ヲ得

第卅四條 第十三條ノ届出ヲ爲サス若クハ虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタルハハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス其脱税シタル者ハ脱税金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第卅五條 此税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰズ

第卅六條 府縣ハ此税法ニ依リ納税義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本税十分ノ二以内ノ附加税ヲ課スル事ヲ得此附加税ノ外府縣税又ハ地方

課税ノ事ヲ得

附 則

第卅七條 此税法ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第卅八條 明治廿九年度ニ屬スル府縣税又ハ地方税ハ第卅六條ノ規定ニ依ルノ限リコアラズ

明治二十九年年度ニ屬スル府縣税又ハ地方税ノ賦課ヲ受ケタル業體ニ對スル此税法ノ營業税ハ明治三十年ニ限リ年額四分ノ三ヲ徴收ス

第卅九條 第二十条五月ノ納期ハ明治卅年ニ限リ七月トス

○營業税法施行規則

明治二十九年七月
勅令第二百六十九號

第一條 營業税法第一條ノ營業者ニシテ同法第二條以下ノ規程ニ依リ營業税ヲ課セラルヘキ者ハ其ノ店舗其ノ他ノ營業場所在地ノ地方

長官ニ同法第十三條ノ届出ヲ爲スヘシ但シ同法第十五條第二項末段ノ場合ニ於テハ其ノ主タル店舗其ノ他ノ營業場所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ

左ニ掲グル者ハ同法第十三條第一項但書ニ依リ開業後十日以内ニ地方長官ニ新規開業ノ届出ヲ爲スヘシ

一 新ニ同法第一條ノ營業ヲ開始スル者

○營業税法

○營業税法

六十

- 二 同法第十五條第二項末段ノ場合ニ該當セサル者ニシテ新ニ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設スル者
- 三 新ニ營業ノ種類ヲ増加スル者
- 第二條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舗其ノ他ノ營業場ノ同一ナルト否トテ問ハス營業ノ種類並ニ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ區分シテ營業税法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ但シ課稅標準トナルヘキモノナ數種ノ營業ニ共通シテ使用スル場合ニ於テハ稅率ノ最重キ營業、稅率等シキハ其ノ重ナル營業ノ一方ニ其ノ課稅標準ヲ計算スヘシ
- 第三條 同一人ニシテ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業税法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ
- 第四條 營業税法第十五條第二項末段ニ依リ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ合セテ營業稅ヲ課セラルヘキ場合ニ於テハ總テノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ通シテ同法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ
- 第五條 株式會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

○營業税法

六十一

- 第六條 合資會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル登記濟出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス
- 第七條 合名會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル總社員ノ出資額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス
- 前項總社員ノ出資額中勞力ノ出資アルトキハ其ノ價格ハ會社契約ニ定メタル價額ニ依ル但シ會社契約ニ其ノ勞力ノ價額ヲ定メサルトキハ各社員損益共分ノ割合ニ從ヒ之ヲ算定スルモノトス
- 第八條 一個人ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ他ヨリ借入レタルト否トテ問ハス前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス
- 前項固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地、建物、築造物、船舶、諸器具、器械ノ價格ヲ計算ス其ノ價格ハ時價相當ノ見積金額ニ依ル
- 第九條 課稅標準額ヲ豫算スルトキハ届出當時ノ實況ニ依リ尙ホ過去將來ノ形情ヲ斟酌シテ之ヲ算出スヘシ
- 第十條 營業税法第十七條ニ依リ控除スヘキ營業費ハ營業上直接ニ必要

ト認ムヘキ費用ニ就テ算定スヘシ

第十一條 營業稅法第十八條第二項ノ場合ニ於テ借地料借家料ヲ支拂フニ金錢ニアラサル物品ヲ以テスルトキハ其ノ物品ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

營業者借地ニ於テ自己ノ建物ヲ所有スルトキハ其ノ土地ハ營業稅法第十八條第二項ニ依リ建物ヘ同條第三項ニ依リ其ノ賃貸價格ヲ計算スヘシ

營業者借家中ニ於テ其ノ建物ノ一部分ヲ所有スルトキハ自己所有ノ部分ハ營業稅法第十八條第三項ニ依リ其ノ建物賃貸價格ヲ計算スヘシ建
物中雜作全部ヲ借主ニ於テ所有スルトキ亦同シ

第十二條 從業者ハ營業主ヲ始メ店舗其ノ他ノ營業場ニ居住スルト否ト使役ノ常時シルト臨時タルトヲ問ハス總テ直接ニ營業ニ從事スル者ヲ計算スヘシ但シ營業主ト同一戸籍内ニ在ル者ハ計算セズ

第十三條 相續讓渡其ノ他原因ノ何タルヲ問ハス營業ヲ繼續スル者ハ其ノ繼續後十日以内ニ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第十四條 營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ店舗其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日以内ニ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ其ノ移轉他ノ管轄地

方ニ涉ルトキハ雙方ニ届出ヘシ

第十五條 營業稅法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニシテ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設シタル者ハ其ノ増設後十日以内ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ヘシ

第十六條 地方長官ハ營業者ノ申告ヲ相當ト認ムルトキハ營業稅法第十二條ノ稅率ニ從ヒ其ノ營業稅ヲ賦課スヘシ

營業者ノ申告ナキトキハ地方長官ハ營業稅法第十六條ノ算定方法ニ依リ其ノ課稅標準ヲ計算シ其ノ營業稅ヲ賦課スヘシ

第十七條 地方長官營業者ノ申告ヲ不相當ト認メ資本金額又ハ建物賃貸價格ヲ算定シタルトキハ其ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第十八條 前條ノ算定ニ對シ異議アル者ヲ再審査ヲ求メントスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ營業稅法第二十七條ノ期限内ニ地方長官ニ申出ヘシ

第十九條 地方長官ハ資本金額再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ更ニ營業者ノ提出シタル理由書ニ據リ當初ノ算定ヲ再查シ其ノ訂正スヘキハ之ヲ訂正シ決定書ヲ作り之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第二十條 地方長官ハ建物賃貸價格再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ土地建物所在地ノ市町村長ニ通知シ評價人ヲ選定セシメ同時ニ政

○營業税法施行規則

府ヨリ命スヘキ評價人ヲ選定スヘシ

第二十一條 評價人ハ滿二十歳以上ノ男子ニ就テ選定スヘシ但シ異議申立人ノ親族其ノ他當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者及治産ノ禁ヲ受ケタル者ニ之ヲ選定スルコトヲ得ス

土地建物ノ敷市町村ニ在リテ其ノ賃貸價格ヲ合算スル場合ニ於テハ其ノ所在市町村毎ニ評價人ヲ選定スヘシ

第二十二條 評價人定リタルトキハ地方長官ハ場所期日ヲ定メ評價人ヲ會合シ其ノ評價ヲ爲サシムヘシ

評價人評價ヲ終リタルトキハ直ニ評價書ヲ作り評價金額竝ニ其ノ理由ヲ記載シ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官ハ前項評價書ニ依リ建物賃貸價格ヲ定メ其ノ決定書ヲ作り之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第二十三條 營業税法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニ於テ營業者數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ有シ其ノ管轄地方ヲ異ニスルトキハ其ノ資本金額建物賃貸價格ノ算定審査ニ關スル事務ハ其ノ主ナル店舗其ノ他ノ營業場所在地ノ地方長官之ヲ爲スヘシ但シ建物賃貸價格ノ評價ニ關スル事務ハ之ヲ土地建物所在地ノ地方長官ニ囑託スヘシ

第二十四條 營業税法第二十八條第二項但書ニ依リ異議申立人ノ負擔ス

ヘキ費用ハ評價人ノ手當及評價人集會ノ費用トス

第二十五條 前條評價人ノ手當ハ毎事件一人金一圓五十錢トシ評價人集會ノ費用ハ會場借料竝ニ會場雜費ニ限ル

第二十六條 營業者ヨリ營業税法第二十九條ノ申立アリタルトキハ地方長官ハ課税標準額算定ノ方法ニ依リ其ノ年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一號又ハ同條第二號ニ該當スルトキハ其ノ課税標準額ノ全部ヲ改算スヘシ

第二十七條 營業者店舗其ノ他ノ營業場外ニ居住シ又ハ旅行シ店舗其ノ他ノ營業場ニ不在ナルトキハ營業税ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納税管理人ヲ定メ地方長官ニ届出ヘシ

第二十八條 營業税法第三十三條ニ依リ收税官吏營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査スルトキハ地方長官ノ検査章ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ

附 則

第二十九條 營業税法第二十一條第二項但書ニ該當スル營業者ハ同法第十三條ノ届書ニ要スル事項ヲ詳記シタル書類ヲ添へ明治三十年一月三十一日迄ニ地方長官ニ其ノ開業月日ヲ届出ヘシ

○營業税法施行規則

○登記法

明治十九年八月
法律第一號

第一章 總則

- 第一條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ヲ爲ス者ハ本法ニ從ヒ地所建
物ハ其所在地船舶ハ其定繫場ノ登記所ニ登記ヲ請フ可シ
已ニ登記ヲ受ケタリ地所建物船舶ニ變更ヲ生シ又ハ亡失破壞シタル
ハ其物件ノ所有者ヨリ登記ノ變更又ハ取消ヲ請フ可シ(廿年七月法律第二
號ニテ本條修正ス)
農商務省特許局ニ於テ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ハ本人ノ居住
地ヲ管轄スル登記所ニ於テ之ヲ爲ス可シ(二十三年九月法律
七十八號ニテ追加)
- 第二條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ハ始審裁判所長之ヲ監
督ス可シ
- 第三條 登記事務ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ取扱フモノトス治安裁判所違
隔ノ地方ニ於テハ郡區役所其他司法大臣指定スル所ニ於テ之ヲ取扱ハ
シム
- 第四條 登記所ノ位置及其管轄ノ區域ハ司法大臣之ヲ定ム
- 第五條 登記官吏ハ登記事務取扱ニ付テハ始審裁判所長ノ監督ヲ受クル
モノトス
- 第六條 登記簿ニ登記ヲ爲サ、ル地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ハ第

- 三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス
- 第七條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ニ付キ登記スヘキ概目左ノ如
シ
- 第一 地所ハ郡區町村名、字、番地、地目、反別若クハ坪數、地券面
ノ價格
- 第二 建物ハ郡區町村名、字、番地、地目、構造ノ種類、建坪數作ノ
有無
- 第三 西洋形船舶ハ汽船、風帆船、區別、船名、番號、登簿噸數、公
稱馬力、汽機、及汽機ノ種類端船其他必用ノ所屬品
- 第四 日本形船舶ハ船名、番號、積石數、間數、端船其他必用ノ所屬
品
- 第五 登記ノ理由
- 第六 金額
- 第七 質入書入ハ其期限及利息
- 第八 所有者及登記ヲ受クル者ノ氏名住所
- 第九 一筆ノ地所又ハ一棟ノ建物ヲ區別ツ賣買讓與質入書入ヲ爲スト
キハ其事實

○登記法

○登記法

六十八

第十 二番以後ノ書入ヲ爲シ又ハ書入ニ爲シタルモノヲ買入ト爲シ買入ニ爲シタルモノヲ書入ト爲ストキハ其事實

第十一 登記ノ年月日

第八條 登記ハ契約者雙方又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ請求ス可シ

登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏ハ之ヲ受付帳ニ記載シ契約者ヨリ差出シタル書類ノ受取證ヲ下付ス可シ

登記ヲ爲スニハ登記ノ番號ヲ記シ登記官吏之ニ署名捺印ス可シ(二十三年九月法律七十八號ニテ改正ス)

第九條 地所建物船舶ニ關スル差押假差押差留假差留假處分及地所建物ノ收益差押ニ付テハ裁判所ノ命令書(又ハ官廳ノ照會書)(二十三年九月法律七十八號ニテ追加)ニ依リ登記簿ニ其記入ヲ爲ス可シ

前項ノ記入ハ裁判所又ハ官廳ヨリ直ニ之ヲ求ムヘシ(同上)

第十條 登記ハ第一條第二項第十五條第二項第十六條第十七條及第十八條ヲ除クノ外契約者雙方ノ請求若クハ裁判所ノ命令アルトキニ非サルハ之ヲ爲シ又ハ變更シ又ハ取消スヲ得ス(二十年法律第一號ニテ改正ス)

第十一條 登記ノ謄本又ハ抜書又ハ一覽ヲ要スル者ハ其登記所ニ之ヲ請求スルコトヲ得

○登記法

六十九

第十二條 登記官吏ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第十三條 登記ニ關スル取扱ノ手續及登記簿ノ書式ハ司法大臣之ヲ定ム

第二章 賣買讓與
第十四條 地所建物船舶ノ賣買讓與ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シテ其證書ヲ示シ其署名捺印シタル謄本一通ヲ差出ス可シ但第九條第十六條第十七條第十八條及第十九條ノ登記ニ付テハ證書ヲ示スノ限ニ在ラス

本條ノ謄本ハ登記簿ノ一部トシテ之ヲ添ヘ置ク可シ

證書ニ塗抹改竄アリテ利害關係人ノ承諾シタル證ナク登記官吏ノ求ニ應フ請求者ヨリ之ヲ説明スルコト能ハザルトキハ登記官吏ハ登記ヲ拒絕スルコトヲ得(二十三年九月法律七十八號ニテ改正)

第十五條 家督相續ニ因リ地所、建物、船舶ノ登記ヲ請フトキハ雙方出頭シ其證書ヲ示ス可シ

死亡者失踪者若クハ離縁戸主ノ遺留シタル地所、建物、船舶ヲ相續スル者登記ヲ請フトキハ親屬(二名以上)又親屬ナキトキハ近隣ノ戸三ニ

○登記法

六十九

○登記法

名以上ノ連署ノ書面ヲ差出シ且證明書類アルモノハ之ヲ示ス可シ

第十六條 行政官廳ノ公賣處分ニ依リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者

登記ヲ請フトキハ落札違書及其代金完納ノ證書ヲ示スヘシ(二十三年九月二十七日)

備一項本條ノ登記ハ其處分ヲ爲シタル官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ本項ノ規定

ハ第十七條及第十九條ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス

第十七條 官有ノ地所建物船舶ノ拂下又ハ無代價下渡ヲ受ケ登記ヲ請フ

トキハ其指令ノ本書若クハ違書ヲ示ス可シ

第十八條 民有ノ地所建物船舶ヲ官有ト爲シタルトキハ其官廳ハ第七條

ノ概目ヲ示シテ登記ヲ求ム可シ

第十九條 裁判執行上ノ糶賣若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ

得ル者アルトキハ裁判所ノ命令ニ依リ其登記ヲ爲ス可シ

第二十條 地所船舶ノ賣買讓與ニ因リ地券鑑札ノ下附若クハ書換ヲ請フ

者ハ登記簿ノ證ヲ受クヘシ(二十年法律第一號)

第三章 質入書入(二十年法律第一號)

第二十一條 地所建物船舶ノ質入書入ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス(二十年九月十八號)

貸借ノ爲メニ非スニテ義務ヲ果ス可キ保證ノ爲メ地所建物

船舶ヲ質入書入ト爲シ其登記ヲ請フ者モ亦前項ノ規定ニ依ル可シ

第二十二條 書入ノ地所建物船舶ヲ重テ書入ト爲ストキハ第二債主ニ

於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出其記入ヲ請フ可シ書入ト爲リタル地所ヲ質

入ト爲シ又ハ質入ト爲リタル地所ヲ書入ト爲ストキ亦シ同

第二十三條 質入書入契約ノ全部若クハ一部ノ解除又ハ變更ニ付テモ亦

第十四條ヲ準用ス

第二十四條 同一ノ地所建物船舶ニ付キ數個ノ登記ヲ爲ストキハ其登記

ヲ請フ日時ノ前後ニ因リ登記ノ順序ヲ定ムルモノトス

第四章 登記料及手数料

第二十五條 改正(登録法改正)

第二條 地所建物ノ登記ヲ請フ時ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ

一 買受人 賣買代價千分ノ二十

二 家督相續人(戸主ノ死亡、失踪、離縁、跡相續人共) 時價相當價格千分ノ五

但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタル時ハ時價價格千分ノ十

三 遺産相續人 時價相當價格千分ノ十

贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ二十

四 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五

五 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五

七 強制管理ノ申立人又ハ假差押、假處分ノ申立人 價格千分ノ三
八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金拾錢
九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ二

六號及ヒ七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニ依ル
第三條 船舶ノ登記ヲ請フ時ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ
一 買受人 賣買代價千分ノ十

二 家督相續人(戸主ノ死、失踪、
但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルモハ時價相當價格千分ノ五トス
三 遺產相續人 時價相當價格千分ノ五
四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者、時價相當價格千分ノ十
五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五
六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五
七 假差押假所分ノ申立人 價格千分ノ三
八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金拾錢
九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 地價相當價格千分ノ一

第四條 船舶ノ登記ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム可シ
六號及ヒ七號ノ場合ニ於テ價格ノ定マラサル者ハ時價相當價格ニ依ル

一 新規登録 十五噸未満ノ船舶 金五十錢
二 轉籍 十五噸以上ノ船舶 金十錢
三 除籍 十五噸以上ノ船舶 金十錢
四 登記事項ノ變更 十五噸以上ノ船舶 金十錢
一號、二號及三號ノ場合ニ於テ十五噸以上ノ船舶ヲ登録スルトキハ士
噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス 每一件金拾錢
以上五千圓マテ毎ニ二圓ヲ增加ス

第二十六條 地所建物船舶讓與ノ登記ニ付テハ其讓渡人讓受人ニ於テ時
價相當ノ價格ヲ定メ前條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其讓與人
ヨリ登記料ヲ納ム可シ

第二十七條 地所建物船舶質入書入ノ登記ニ付テハ其質入人書入人ハ第
二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ半額ヲ納ム可
シ但一件ニ付キ金五錢ヨリ下スコトヲ得ス

第二十八條 第二十一條第二項ノ登記ニ付テハ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依
リ其登記料ヲ納ム可シ
第九條第一項ノ記入ニ付テハ其價格ノ定マリタル物件ハ其價格又其價
格ノ定マラサル物件ハ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料
ヲ納ム可シ

○登記法

七十四

- 第九條第十六條第十七條及第十九條ノ場合ニ於テ處分ヲ爲シタル官廳ヨリ登記ヲ求ムルニハ登記料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼用シテ其官廳ニ納メシメ官廳ヨリ之ヲ登記所ニ送付ス可シ(二十三年九月十七日八号ニテ追加)
- 第二十九條 第十五條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金三錢ヲ納メシメ建物船舶ニ付テハ時價相當ノ價格ヲ定メ第二十五條ニ掲グル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ五分一ヲ納メシム但一件ニ付金三錢ヨリ下スコトヲ得ス
- 第十五條第一項ノ場合ニ於テ家督相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルモノニ付テハ讓與ノ登記料ヲ納メシム(二十三年九月十七日十八號ニテ追加)
- 第三十條 左ニ掲クル者ハ手数料トシテ金五錢ヲ納ム可シ
 - 第一 登記事件ノ取消又ハ其變更ノ登記ヲ請フ者ハ每一件
 - 第二 登記ノ謄本若クハ抜書ヲ請フ者ハ每一件
 - 第三 登記ノ一覽ヲ請フ者
- 第三十一條 左ニ掲クルモノハ登記料及手数料ヲ要セス
 - 第一 官廳ノ請求ニ係ル登記
 - 第二 公立ノ學校、病院、公園及養育院ニ係ル登記
 - 第三 社寺、堂宇及墳墓地ニ係ル登記

○登記法

七十五

- 第四 人民共有ノ用恩水路溜池敷、堤敷、井溝敷及公眾ノ用ニ供スル道路ニ係ル登記
 - 第三十二條 登記所ニ於テ第二十五條第二十六條第二十八條第二項及第二十九條ニ從ヒ届出タル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其事件ニ關係ナキ者三名ヲ選ビ之ヲ評價人ト爲シテ其價格ヲ評定セシム可シ
 - 第三十三條 評價人ノ評定シタル價格届出ノ價格ヨリ増加スルトキハ其評價ニ關スル費用ハ其登記料ヲ納ムル者之ヲ負擔ス可シ若シ其價格届出ノ價格ト同價又ハ低下ナルトキハ該費用ハ其登記所ニ於テ之ヲ支辨ス可シ
 - 第三十四條 評價人ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス
 - 第三十五條 評價人ノ日當ハ登記所ノ見込ヲ以テ一日金二十錢ヨリ五十錢マテヲ給ス可シ
- 第五章 罰則
- 第三十六條 詐欺ノ所爲ヲ以テ登記料ヲ減脱シ及之ニ通謀シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 第三十七條 本法ニ依リ罰金ニ處スル者ハ刑法ノ不諭罪及減輕再犯加重

○登記法
數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

附 則

第三十八條 明治十年第二十八條布告船舶賣買書入質手續同十三年第五拾二號布告土地賣買讓渡規則同十四年第三拾號布告地券證印稅則其他從前ノ法律規則中本法ニ抵觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十九條 地所賣買讓與荒地起返開墾鐵下年期明等總テ地券下付書換ニ係ル手續及其手数料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十條 登記簿ニ未シ登記セサル地所建物船舶ニ付キ從來保有セル所有權ヲ明確ナラシメント欲スル者ハ管轄登記所ニ其所有權ノ登記ヲ請フコトヲ得

右ノ登記ヲ請フ者ハ物件ヲ明示シタル請求書ニ其所有權ノ證明書類ヲ添ヘ之ヲ登記所ニ差出ス可シ但其所有權ヲ取得シタルコトヲ證スル證書ヲ其證明書トシテ差出ストキハ第拾四條ヲ準用ス

本條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金一錢ヲ納メシメ建物船舶ニ付テハ一件毎ニ金一錢ヲ納メシム

第四十一條 登記所ハ初テ登記ヲ爲シタル地所ニ付テハ之ヲ其地ノ土地臺帳所管應ニ通知シ其所管應ヨリ右ノ地所ニ付キ分合筆又ハ地番號及

地目ノ變換アル毎ニ之ヲ登記所ニ通知ス可シ

土地臺帳所管應ハ明治二十二年勅令第三拾九號ニ依リ登記所ヨリ所有ノ移轉又ハ質入ニ付キ通知ヲ受ケタル地所ニ關シ前項ノ變換アルトキモ亦通知ヲ爲ス可シ

登記所ハ前二項ノ通知ニ依リテ登記簿ニ其變換ノ旨ヲ追記ス可シ

所得稅法

明治二十年三月十九日勅令第五號

第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此稅法ニ依テ所得稅ヲ納ム可シ

但同居ノ家族ニ屬スル者ハ總テ戶主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出ス可シ

第一 公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子、營業ニアラサル貸金預金ノ利子、株式ノ利益配當金、官私ヨリ受クル俸給、手當金、年金、恩給金及割賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二 第一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應シ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅、地方稅、區町村費、備荒儲蓄金、製造品ノ原質物代價、販賣品ノ原價、種代、肥料諸利

○所得稅法

事業ニ屬スル場所物件ノ借入料、修繕料、雇人給料、負債ノ利子及雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三 第二項ノ所得ハ前三箇年間平均高キ以テ算出ス可シ但シ所得收入以來未タ三年ニ滿タサルモノハ月額平均ヲ得難キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出ス可シ

第三條 左ニ掲クルモノハ所得稅ヲ課セス

第一 軍人從軍中ニ係ル俸給

第二 官私ヨリ受クル旅費傷痕疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料

第三 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

等級	所得金	稅率
第一等	所得金高三萬圓以上	百分ノ三
第二等	所得金高二萬圓以上	百分ノ二半
第三等	所得金壹萬圓以上	百分ノ二
第四等	所得金高千圓以上	百分ノ一半
第五等	所得金高三百圓以上	百分ノ一

但所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算セス

第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ム可シ

第六條 此稅法ニ依リ稅金ヲ納ム可キ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ毎年四月三十日迄ニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出可シ

第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調査委員ヲ置キ毎年調査委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム

調査委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ補充ニ備フ可シ
調査委員及補缺員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第八條 調査委員ハ其郡區内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 調査委員ノ選舉人被選人ハ二十五歲以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ被選人タルコトヲ得ス同條第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村選舉人ノ員數ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互選セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラサル選舉人ヲ定ムルコトヲ得

○所得稅法

○所得稅法

町村選舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調査委員及補缺員ヲ選舉ス可シ

第十一條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス但第一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調査委員ノ手當、旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ屆書ニ據リ所得金高下調査ヲ製シ其屆書ト共ニ調査委員會ニ付ス可シ

第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ付ス可シ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長缺席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半數出席スルニアラサレハ會議ヲ開クニトキ得、會議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與ルコトヲ得ス

第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ議決ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達ス可シ

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ議決ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フ可シ

第十九條 納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其達ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其證據トナルヘキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此場合ニ於ケルモ其税金ハ達ヲ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ム可シ

第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其議決ニ據テ之ヲ處分ス可シ但其納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徴シ過剩アルモノハ之ヲ還付ス可シ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條 調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者ノ資産及所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩ス可カラス

○所得稅法

第二十三條 納稅者其納稅期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其稅額ヲ減

○所得税法

所得金高一箇年ヲ三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅ス可シ但既納ノ税金ハ之ヲ還付セス

第二十四條 所得金高ヲ隱蔽シテ逃稅シタル者ハ其逃稅金高三倍ノ處罰金ニ處ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徵シ其罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第六條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 此税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此税法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十九條 此税法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス

但北海道、沖繩縣及東京府管轄小笠原島、伊豆七島ニ於テハ官府ヨリ受クル俸給、手當、年金及恩給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セス

附 則

本法第六條ノ届書ハ本年ヨリ限リ七月三十一日迄ニ差出ス可シ

●所得税法施行細則

二十年五月五日
大藏省令第八號

第一條 戶主ニ所得ヲクシテ同居ノ家族ノミコテ所得アル場合ニ於テハ一家内ニ屬スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ以テ届出納稅ス可キモノトス

第二條 税法第二條第三項ニ依リ所得ヲ算出スルハ其年所得ヲ生ス可キ現在ノ資産又ハ現在ノ業務ニ應シ前三箇年平均若クハ月額平均ノ歩合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ル可キモノトス

第三條 物品ニテ收入スル所得ハ其相當價格ヲ以テ代金ヲ算出ス可シ

第四條 税法第六條ノ届書ハ第一號書式ニ依ル可シ

第五條 左ニ掲クル者ハ一定ノ地ニ其納稅管理人ヲ定メ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出此税法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシム可シ

一 此税法ヲ施行セサル地ニ居住シ本法施行ノ地ニ於テ生スル所得金一箇年三百圓以上ヲ收入スル者

一 内外國ニ旅行シ又ハ外國若クハ此税法ヲ施行セサル地ニ寄留スル納稅者

第六條 一人ニシテ數箇所ニ於テ所得ヲ收入スル者ハ其住居地ノ郡區長ニ届出ヲ爲スト同時ニ二號書式ニ依リ其所得ヲ收入スル各地ノ郡區長ニ届出可シ

○所得税法施行細則

○所得稅法施行細則

八十四

郡區長第六條ノ届出ヲ受クルトキハ之ヲ其納稅地ノ郡區長ニ送
ケル可シ

但其届出高ニ對シ意見アルトキハ別ニ其意見ヲ付ス可シ

第八條 納稅者他ノ郡區役所所轄内ニ轉居セントスルトキ及轉居シタル

トキハ各其地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出可シ

第九條 郡區長第八條ノ地ニ轉居セントスル者ノ届出ヲ受ケタルトキハ

直チニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居先ノ郡區長ニ通報ス
可シ

第十條 郡區長ハ其所轄内ニ於テ納稅者ト認ムルモノ、所得ニ關シ調査

上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一個人ニ對シ其事項ノ

合ヲ爲スコトヲ得

第十一條 郡區長ハ調査委員選舉ノ爲メ稅法第六條ノ届出ニ依リ毎年五

月納稅者ノ住居姓ヲ其管内ニ公告ス可シ

第十二條 調査委員會及調査委員選舉ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定

ム

第十三條 調査委員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ已ムヲ得スト思

料スル事故アル者ニ限ル

第十四條 調査委員會ノ議決書ハ會長及委員二名以上之ニ署名ス可シ

第十五條 所得稅ノ等級金額ハ第三號書式ニ依リ毎年八月十日マテニ之

ヲ送ス可シ

第十六條 區長ニ於テ直ニ戶長ノ事務ヲ行フ區内ニ在テハ府縣知事ノ見

込ヲ以テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ一區内ヲ數郡ニ劃シ每部ニ五名以下ノ

臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指揮ニ從ヒ所得稅調査ニ關スル下調ヲ爲サシ

ムルコトヲ得

第十七條 稅法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北海道廳長官

東京府知事沖繩縣知事之ヲ査定ス可シ

第十八條 調査委員招集ニ應セサルカ又ハ會員過半數出席セス若クハ其

他ノ事故ニ依リ第十五條ノ等級金額達期限マテニ調査ヲ了セサルトキ

ハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意見ヲ付シ府縣知事ニ差出シ府縣知事ハ之

ヲ大藏大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フ可シ

第十九條 第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ届出ヲ怠リタル者ハ壹圓以

上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

本年ニ限リ第十一條ノ公告ハ九月第十五條ノ達ハ十一月ニ之ヲ爲ス可シ

○所得稅法施行細則

八十五

○國稅徵收法

八十六

(舊式略之)

●國稅徵收法 明治三十年三月 法律第二十二号

第一章 總則

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル

第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一ヶ年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ諸物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

第四條 納稅人國稅其他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債權ニ因リ強制執行若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ納稅人タル會社カ解散ヲ爲シタルトキ亦同シ

納稅人他ノ公課ニ付滯納處分ヲ受ケタルニ因リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ國稅ハ其ノ滯納處分費ニ對シテ先取セサルモノトス

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租稅及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ稅金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

前項地租稅徵收ノ費用ハ其ノ市町村ノ負擔トシ其ノ他ノ國稅ハ其徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ付

シ其ノ納金額納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要

スルトキハ其ノ間稅金ノ徵收ヲ爲サ、ルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカヲサル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキ

ハ其事實ヲ證明シ大藏大臣ニ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其事實ヲ審査シ其免除ヲ爲スコトヲ得

第三章 滯納處分

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官

吏ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ此ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所

ニ依リ督促手數料ヲ徵收ス

第十條 滯納者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ督促手數料及稅金ヲ完納

○地租條例

八十七

◎地租條例

セサルトキハ其財産ヲ差押フヘシ

第十一條 收稅官吏滯納處分ノ爲財産ノ差押ヲ爲ストキハ其命令ヲ受ケ

タル官吏タルノ證據ヲ示スヘシ

第十二條 差押スヘキ財産ノ價格ニシテ滯納處分費及第三條ニ依リ控除

スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分執行ヲ止ム

第十三條 收稅官吏滯納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタ

ル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收

稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ

就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前マ

テニ所有者タルノ證據ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財産ノ差押ヲ免ル、爲故意

ニ其ノ財産ヲ讓リ渡シ讓リ受人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政

府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカヲサル衣服寢具家具及廚具

二 滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一ヶ月間食料及薪炭

三 寶印其他職業ニ必要ナル印

四 祭祀禮拜ニ必要ナルト認ムル物及石礮墓地

五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類

六 職務上必要ナル制服祭服法衣

七 勳章其ノ他名譽ノ章票

八 滯納者及同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具

九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ

第十七條 左ニ掲クル物件ハ他ニ滯納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物

件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サ、ルモノトス

一 農業ニ必要ナル器具種子肥料及牛馬竝其飼料

二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノ

トス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押ノ爲ニ其執行ヲ妨ケラル、コトヲ

第二十條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋倉庫及筐匣

○地租條例

○ 租 稅 條 例

探索シ又ハ閉鎖シタル戸扉篋匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得
滯納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ
第三者ノ家屋倉庫及篋匣ニ滯納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收
稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ掲ケ
ル第三者又ハ其ノ家族雇人チシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不
在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員
市副町制ヲ施行セサル地ニ
在リテハ區長其ノ附屬吏員 若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 通貨地金銀有價證券ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ封印
シテ其地ノ市町村長_{市制町制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區長}ニ保管セシムヘシ
前項ニ掲ケサル物件ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏封印シテ之ヲ保管ス
ヘシ但シ不動産又ハ運搬ヲ爲スニ付困難ナル物件ヲ差押ヘタルトキハ
其ノ保管ヲ滯納者又ハ第三者ニ命ズルコトヲ得

第二十三條 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘ
シ債務者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ收稅官吏ニ對シテ滯納處分費及
稅金額ヲ限トシ自己ノ債務ヲ支拂フノ義務ヲ有ス其義務ノ消滅セサル
前ニ滯納者ニ對シテ爲シタル支拂ハ無効トス

第二十四條 差押ヘタル有體動産及不動産ハ公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勸
令ヲ以テ之ヲ定ム
公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價額見積價格ニ達セサルトキ
ハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上ルコトアルヘシ
第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ
隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏公吏雇員ハ直
接ト間接トナ問ハス其賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滯納處分費ハ督促手数料財産ノ差押保管運搬及公賣ニ關ス
ル費用通信費及訴訟費用トス
滯納處分ヲ中止シタル場合ニ於テモ之ニ要シタル處分費用ハ仍之ヲ從
收ス滯納處分費ハ國稅及第三條ノ債權ニ對シテモ之ヲ先取ス

第二十八條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費及稅金ニ充
テ仍殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ賣却シタル物件質入出入
ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ處分費及稅金ヲ控除シ次ニ
其ノ負債金額ニ充ルマテ之ヲ債主ニ交付シ仍殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還
付ス

○ 國 稅 徵 收 法

付スヘシ但シ第三條ニ掲ケタル質入書入ノ物件ニ關シテ其ノ代金ヨリ先ツ滯納處分費ヲ徵シ次ニ其ノ負債金額ニ充ツ債主ニ交付シ次ニ税金ヲ送除シ仍殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ滯納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ事務所ニ送達スルモノトス
名宛人ノ住居又ハ事務所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住居若ハ事務所不明ナルトキハ通知ノ趣旨ヲ公告シ五日ヲ過クルトキハ其ノ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第三十一條 直接國稅滯納者ノ納稅義務ハ滯納處分ノ結了ヲ以テ終ル滯納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ
間接國稅ニ付テハ滯納處分結了スルモ滯納處分費及税金ノ完納ニ至ラサルトキハ納期限後一箇年ハ隨時其不足額ヲ徵收ス滯納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

第四章 罰則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

沖繩縣及東京府管内小笠原島伊豆七島ニハ當分ニテ施行セス市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●地租條例 明治十七年三月第七號布告
地租條例別冊ノ通制定シ明治六年(七月)第二百七十二號布告地租改正

○地租條例

九十四

條例及ヒ地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ牴觸スルモノハ廢止ス
但東京府管轄伊豆七島小笠原島兩館沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分従前ノ
通タルヘシ

地租條例

- 第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス
- 第二條 地租ハ年ノ豊凶ニ依リ増減セス
- 第三條 有租地ヲ區別シテ二類トナス
 - 第一類、田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鐵泉地
 - 第二類、池沼、山林、牧地、原野、雜種地(第三類ハ廿二年法律第三十號ニテ改正)
- 第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト云フ
- 第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト云フ
- 一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖
水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト云フ
- 第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惠水路、溜池、隄堰、井溝
鐵道用地、禁伐林及ヒ公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス(二十二年第三
十號ニテ改正)
- 第五條 土地ノ丈ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方一間ヲ以テ歩ト爲シ三
十步ヲ畝ト爲シ十畝ヲ段ト爲シ十段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方一間ヲ

○地租條例

九十五

- 以テ坪ト爲シ坪ノ十分ノ一ヲ合ト爲シ合ノ十分ノ一ヲ勾ト爲ス
- 第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルハ地盤ヲ丈量ス(二十二年第三
十號ニテ改正)
- 第七條 地價ハ地目變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルハ
アラサレハ之ヲ修正セス(二十二年第三
十號ニテ改正)
- 第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ
- 第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ鑑定シ其所得ヲ審查シ尙ホ其土地ノ情
況ニ應シ之ヲ定ム
- 第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルハ地方
廳へ届出ツヘシ 地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年
目ヨリ修正地價ニヨリ地租ヲ徵收ス 但シ第十六條第六項ノ場合ハ此
限ニアラス 第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ
据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス(二十二年第三
十號ニテ改正)
- 第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ
地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム
- 第十二條 地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス但シ質入ノ土地ハ其質取主
ニ於テ之ヲ收ムヘシ(二十二年第十
號ニテ改正)
- 第十三條 第一項左ノ如ク改ム 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓

○地租條例

九十六

地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用照水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地及公眾ノ用ニ供スル道路トナスルハ其地租ハ工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニヨリ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此ノ限ニアラス(二十二年第三十號ニテ修正)

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期間ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス(二十二年第三十號ニテ修正)

第十六條 開墾ヲナサントスルキハ地方廳ニ差出ヘシ前項ノ開墾地ハ開墾ノ手ノ年ヨリ十年目ヨ其ノ成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲナサントスルキハ地方廳ニ願出テ墾下年期ノ許可ヲ受クヘシ墾下年期ハ卅年以内トス但年期中ハ原地價ニヨリ地租ヲ徵收ス 官有地ヲ開墾シテ民有地ニ歸セシ土地ハ其ノ素地相當ト認ムル處ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ墾下年期ヲ許可ス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス 官有水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス 耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニシキ勞費ヲ要スル者ハ本條第三

○地租條例

九十七

項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許可スルコトアルヘシ(二十二年第三十號ニテ修正)

第十七條 削除

第十八條 第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサル者ハ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ許可ス(二十二年第三十號ニテ修正)

第十九條 墾下年期地價据置年期明新開地租年期明ノ其ノ地價ヲ定メ又ハ修正ス(二十二年第三十號ニテ修正)

第二十條 荒地ハ其年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス 海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニヨリ前項ニ準據スルコトアルヘシ(二十二年第三十號ニテ修正)

第二十一條 荒地免租年期間ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(二十二年第三十號ニテ修正)

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スル者ハ其地ノ現況ニヨリ地價ヲ定ム(二十二年第三十號ニテ修正)

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其ノ年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第廿

○地租條例

九十八

- 第一條 第廿二條ニヨリ處分ス(二十二年第三十號ニテ改正)
- 第廿四條 川成海成湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ十年以内免租繼年期ヲ許可ス其ノ年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川海湖ニ歸スルモノトス(二十二年第三十號ニテ改正)
- 第廿五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ逋税スルモノハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但シ發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルヲ得ス(二十二年第三十號ニテ改正)
- 第廿六條 第十條ニ違犯スルモノハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且ツ現地目ニヨリ地價ヲ定メ其ノ地租ヲ徵收ス但シ發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルヲ得ス(二十二年第三十號ニテ改正)
- 第廿七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲナサハルモノハ現地目ニヨリ地價ヲ定メ其ノ地租額ヲ追徴ス但シ發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルヲ得ス(明治二十二年法律第百三十號ニテ改正)
- 第廿八條 第廿五條以下ノ處犯借地人小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス
- 第廿九條 第廿五條第廿六條第廿七條第廿八條ノ刑ニ當ル者自首スルハ

ハ其罰金科料ヲ免ス但其ノ追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

●鑛業條例

第一章 總則

- 第一條 鑛業トハ鑛物ノ試掘採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ
- 第二條 鑛物ノ未タ採掘セサルモノハ國ノ所有トス
此ノ條例ニ於テ鑛物トハ金鑛(砂金ヲ除ク)銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛(砂錫ヲ除ク)安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛(砂鐵ヲ除ク)硫化鐵鑛、滿布鑛、砒鑛、黑鉛、石炭、石油及硫黃ヲ謂フ
- 第三條 帝國民ニ非サレバ鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主トナルヲ得ス鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘖啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ
- 第四條 農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主若ハ役員トナルコトヲ得ス
- 第五條 此ノ條例ニ依リ鑛業特許取消ノ處分ヲ受ケタル鑛業人ハ同鑛區ニ付一箇年間採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス
- 第六條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲ストキハ總代一名ヲ撰定シ豫メ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ總代ハ鑛業上ニ關シ政府ニ對シテ共同鑛業人

○鑛業條例

九十九

○鑛業條例

ヲ代表スルモノトス

第七條 共同鑛業人ノ變更、探堀權ノ賣買、讓與、書入及廢業屆等ニハ總代ノ外少クモ共同鑛業人過半數ノ連署ヲ要ス

第二章 試堀及探堀

第八條 試堀ヲ爲サント欲スル者ハ其ノ願書ニ試堀地ノ圖面ヲ添へ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 試堀ハ認可ノ日ヨリ一箇年ヲ限トス

試堀人前項ノ期限内ニ於テ其ノ事業ヲ竣へ難キ事實アリトキハ所轄鑛山監督署長ニ延期ヲ出願スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ハ其ノ事實ヲ調査シ己ムヲ得サルモノト認ムルトキハ一箇年以内ノ延期ヲ認可スルコトヲ得

第十條 試堀ニ依リ採取シタル鑛物ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ得テ之ヲ販賣スルコトヲ得

第十一條 前條ニ依リ鑛物ヲ販賣シタルトキハ三十日以内ニ其ノ販賣代價百分ノ一ヲ所轄鑛山監督署ニ納ムヘシ

前項ノ金額ヲ其ノ期限内ニ納メサル者ハ國稅滯納處分法ニ依リ處分ス

第十二條 探堀ノ特許ヲ得ント欲スル者ハ探堀願書ニ鑛區圖ヲ添へ農商

務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

探堀願書及鑛區圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミテ差出シ置キ鑛區圖ハ願書ノ日附ヨリ五十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此期限内ニ差

出サルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十三條 探堀ヲ出願スル者ハ出願地ニ其探堀セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第十四條 鑛山監督署長ハ鑛物ノ存在ヲ認定スル爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ探堀出願人ヲシテ出張吏員ノ爲メニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

探堀出願人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十五條 鑛山監督署ニ於テハ試堀及探堀願登録簿ヲ備へ置キ出願日時ノ先後ニ依リ之ヲ登錄ス

第十六條 試堀又ハ探堀ノ出願同一ノ地ニ付二人以上アルトキハ出願日時ノ先後ニ依リ其ノ許否ヲ定ム

出願ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ各出願人ニ通知ス

○鑛業條例

○鑛業條例

ハシ各出願人ハ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ協議ヲ遂ク出願人ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス
出願ノ日時同一ニシテ試堀ト探堀トニ係ルトキハ先ツ探堀ノ出願ニ付其許否ヲ定ム

第十七條 農商務大臣探堀ノ特許ヲ與フヘキモノト認メタルトキハ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第十八條 試堀若ハ探堀ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ試堀ニ就テハ所轄鑛山監督署長、探堀ニ就テハ農商務大臣其ノ出願ヲ許可セス

第十九條 試堀若ハ探堀ノ事業公益ニ害アルトキハ試堀ニ就テハ所轄鑛山監督署長、探堀ニ就テハ農商務大臣既ニ與ヘタル認可若ハ特許ヲ取消スコトヲ得

前項取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第二十條 特許ヲ得タル鑛物ノ探堀ニハ賣買、讓與又ハ書入ヲ爲スコトヲ得

探堀權ヲ賣買、讓與スルトキハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ヲ經農商務

大臣ニ出願シ鑛業特許證ノ書換ヲ受クヘシ此ノ手續ニ依ラサル賣買、讓與ハ法律上其ノ効ナキモノトス

探堀權ノ書入ハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ノ登録ヲ受クヘシ其登録ヲ受ケサルモノハ法律上其ノ効ナキモノトス

第二十一條 他人試堀ノ年限中ハ其ノ試堀地内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付探堀ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 他人ノ認可ヲ得タル試堀地内ニ於テ其ノ試堀人ノ未タ認可ヲ得ザル鑛物ノ試堀又ハ探堀ヲ出願セント欲スル者ハ試堀人ノ承諾ヲ經ヘシ

試堀人自ラ試堀又ハ探堀ヲ出願セント欲スルカ若クハ其ノ認可ヲ得タル鑛物ノ試堀ニ妨害アルトキノ外ハ試堀人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條 他人所屬ノ鑛區内ニ於テ其鑛業人ノ未タ試堀ノ認可又ハ探堀ノ特許ヲ得サル鑛物ニ付試堀若ハ探堀ヲ出願セント欲スル者ハ鑛業人ノ承諾ヲ經ヘシ

鑛業人自ラ試堀又ハ探堀ヲ出願セント欲スルカ若クハ其ノ試堀又ハ探堀ノ爲ニ鑛業ニ妨害アルトキノ外ハ鑛業人ノ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得

○鑛業條例

○鑛業條例

第二十四條 宮城、離宮、神宮、皇陵、陸海軍所轄城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ試掘又ハ探掘若ハ鑛業上使用スルコトヲ得ス但軍港、要港ハ其ノ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ此限ニアラス

第二十五條 鐵道、馬車鐵道、公道、河湖、堤防、沼池、社寺、墓地、公園地及建物ヨリ地表地下トモ其周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳若クハ所有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ試掘又ハ探掘ヲ爲スコトヲ得ス但危險ノ虞ナキモノハ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 鑛業人ハ毎年ノ鑛業施業案ヲ調製シ其前年十月三十日限其ノ初年ニ係ルモノハ探掘特許ノ日ヨリ三箇月以内ニ所轄鑛山監督署長ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

前項ノ施業案ニシテ坑内ノ保安ニ害アリ又ハ其ノ鑛區ニ相當スル鑛業ヲ爲サ、ルモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ理由ヲ鑛業人ニ示シ期限ヲ定メ之ヲ改正セシムヘシ

第二十七條 鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ受ケタル鑛業施業案ニ依ルニアラサレハ探掘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 鑛業人鑛業施業案又ハ其ノ改正案ヲ期限内ニ差出サ、ルトキハ農商務大臣ハ其ノ探掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第二十九條 鑛業人一箇年以上休業シ又ハ探掘ノ特許ヲ得タル日ヨリ一箇年以内ニ鑛業ニ着手セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第三十條 前二條ノ場合ニシテ其ノ自己ノ過失ニ由ラサルモノハ特許取消ノ達ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其ノ理由ヲ農商務大臣ニ申立テ再願ヲ爲スコトヲ得若シ農商務大臣ニ於テ之ヲ拒ムトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十一條 鑛業人ハ坑内實測圖ニ葉ヲ調製シ一葉ハ所轄鑛山監督署ニ差出シ一葉ハ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ

前項坑内實測圖ハ事業ノ進歩ニ從ヒ六箇月毎ニ追補スヘシ

鑛業人若シ他人ノ所屬ニ係ル隣接鑛區ノ坑内實測圖ニ付證明ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ニ於テ右證明ノ爲メニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

○鑛業條例

○鑛業條例

第三十二條 鑛業人鑛業特許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シテ所轄鑛山監督署ヲ經其ノ再下付テ農商務大臣ニ出願スヘシ

第三十三條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ試堀ノ認可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ認可ヲ取消スヘシ若シ其ノ認可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ認可ノ日ヨリ三箇月以内ニ試堀認可ノ取消ヲ所轄監督署長ニ訴願スルヲ得

前項所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ノ日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルヲ得

第三十四條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ採堀ノ特許ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スヘシ若シ其ノ特許ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ特許ノ日ヨリ三十日以内ニ採堀特許ノ取消ヲ農商務大臣ニ訴願スルヲ得

前項農務大臣ノ裁定ニ不服アルモノハ其ノ裁定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十五條 第二十二條第二項及第二十三條第二項ノ場合ニ於テ理由

ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ關係人又第二十五條但書ノ場合ニ於テ危險ノ虞ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スルヲ得

第三十六條 前條ノ判定ニ不服アル者ハ其判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ農務大臣ノ裁定ヲ請求スルヲ得

第三十七條 鑛業人廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署長ニ届出テ鑛業特許證ヲ返納スヘシ

第三十八條 第十九條第二十八條第二十九條第三十四條第四十三條及第七十六條ニ依リ農商務大臣ニ於テ採堀ノ特許ヲ取消シ又ハ第三十七條ニ依リ廢業ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ特許ヲ得タル鑛物ノ採堀權ニ對シテ抵當權ヲ有スル債主ハ其ノ抵當權ヲ失フモノトス但第十九條及第三十四條ノ場合ヲ除クノ外債主ニ於テ六十日以内ニ其ノ鑛區ノ採堀ヲ願出ルトキハ出願ノ先後ニ拘ハラス特許ヲ與フヘシ

第三十九條 鑛業人ハ毎年一月前年ニ採取シタル鑛物ノ量數、製産物、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第四十條 鑛業人ハ農商務大臣定ムル所ノ書式ニ依リ帳簿ヲ調製シ製産物ノ量數及販賣代價等ヲ記載スヘシ

○鑛業條例

○鑛業條例

第三章 鑛區

第四十一條 鑛區トハ鑛物ノ採掘ヲ爲ス土地ノ區域ヲ謂フ
鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ一鑛
區ノ面積ハ石炭ハ一萬坪以上其ノ他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六十
萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 出願ニ係ル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利
ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ出願人ニ通
知シ訂正セシムヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ訂正シ
テ差出サ、ルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十三條 特許ヲ得タル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛
利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ
認可ヲ經六十日以内ノ期限ヲ定メ訂正セシムヘシ若シ訂正セサルトキ
ハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人ハ前項特許取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨ
リ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルヲ得

第四十四條 鑛業人鑛床ノ形狀ニ由リ鑛區ノ境界若クハ位置ノ訂正ヲ要

スルトキハ其ノ願書ニ理由書、訂正鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ農商務
大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

農商務大臣ニ於テ訂正ヲ必要ト認メタルトキハ更ニ鑛業特許證ヲ下付
スヘシ

第四十五條 鑛業人鑛區ノ訂正ヲ出願シタル場合ニ於テ所轄鑛山監督署
長吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ
制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

鑛業人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日
以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四章 土地使用

第四十六條 鑛區ヲ合併シ又ハ分割セント欲スル者ハ合併又ハ分割鑛區
圖及鑛業特許證ヲ添ヘ所轄鑛山監督署ヲ經テ農商務大臣ニ出願スヘシ
其ノ採掘權ヲ抵當ニ取リタル債主アルトキハ其ノ承諾書ヲ添フヘシ
鑛區ノ分割ハ第四十一條ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

○鑛業條例

第四十七條 試掘又ハ採掘ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必
要トスルトキハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ其土
地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲ニ損害ヲ生

○鑛業條例

シタルトキハ其測量ヲ請求シタル者ニ於テ之ヲ賠償スヘシ
測量請求者他人ノ所有地ニ入ルトキハ豫メ其ノ土地所有者ニ通知シ且
ツ測量認可證ヲ携帶スヘシ

第四十八條 左ノ場合ニ於テ鑛業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要ト
シ鑛業人其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ
之ヲ拒ムコトヲ得ス

- 一 坑口ヲ開穿スル爲
- 一 坑道、道路、鐵道、馬車鐵道、運河、溝渠及溜地ヲ開設スル爲
- 一 鑛業上必要ノ製練場及建物ヲ建設スル爲

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ關係人ハ土地貸渡ノ請求
ヲ拒ムコトヲ得

- 一 貸渡請求ノ土地第二十五條ニ記載シタル場合ニ係ルトキ
- 一 土地借受人ニ於テ第五十條ノ保證金ヲ差出サ、ルトキ

第五十條 土地借受人ハ貸渡ヲ受ケタル土地ニ對シ其ノ土地貸渡人ニ相
當ノ借地料ヲ仕拂フヘシ土地貸渡人ハ借地料ノ保證金トシテ土地借受
人ニ豫メ土地臺帳ニ記載シタル地價以內ノ金額ヲ差出サシムルコトヲ得
其質入トナリタル土地ニ對スル借地料及保證金ハ質取主ニ於テ之ヲ受

領スルモノトス土地使用ニ依リ所有者又ハ關係人ニ損害ヲ與フルトキ
ハ鑛業人ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ

土地借受人土地ノ使用ヲ終リ其ノ使用中ノ借地料ヲ完納シタルトキハ
土地貸渡人又ハ質取主ハ土地ト引換ニ保證金ヲ返還スヘシ

第五十一條 土地借受人貸渡ヲ受ケタル土地ノ使用ヲ終リタルトキハ土
地貸渡人ノ要求ニ應シ其ノ土地ヲ原形ニ復シ返還スヘシ若シ原形ニ復
シ難キトキハ土地借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第五十二條 土地借受人借地料ノ仕拂ヲ延滞シタルトキハ土地貸渡人ハ
其ノ延滞借地料ニ相當スル金額ヲ保證金中ヨリ差引キ土地ヲ取戻スコ
トヲ得

前項土地ヲ取戻スニ當リ地上ニ建物等アルトキハ六十日以上ノ期限ヲ
定メテ土地借受人ニ其ノ取除ヲ請求スヘシ若シ土地借受人ノ所在不
明ナルトキハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

土地借受人右期限内ニ取除ヲナサ、ルハ其ノ建物等ハ土地貸渡人ノ
所有ニ歸スヘシ

第五十三條 鑛業人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタル
カ爲地地ノ利用ヲ害スルトキハ鑛業人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若ハ

○鑛業條例

○鑛業條例

百十二

借受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
第五十四條 鑛業人ニ於テ貸渡ヲ受ケタル土地ヲ三箇年以上使用スル目
的アルカ又ハ三箇年以上之ヲ使用スルトキハ土地貸渡人ハ鑛業人ニ其
ノ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ買取ヲ
拒ムコトヲ得ス

第五十五條 土地ノ所有者及關係人ト測量請求人又ハ鑛業人トノ間ニ於
テ土地貸渡、借地料、保證金、損害賠償金又ハ土地賣買代價ニ付協議
調ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得
所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ノ違ヲ受ケタル日
ヨリ三十日以内ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ借
地料、保證金、損害賠償金若ハ土地賣買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴ス
ルコトヲ得

前項農務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス
第五十六條 所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ
要スル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス
第五十七條 鑛業人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ
判定シタル借地料、保證金、損害賠償金又ハ賣買代金ニ不服アルモ其

金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額
ヲ供託所ニ預ケ置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第五章 鑛業警察

第五十八條 鑛業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲クルモノハ農務大臣
之ヲ監督シ鑛山監督署長之ヲ行フ

一 抗内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安 一 鑛夫ノ生命及衛生上ノ
保護 一 地表ノ安全及公益ノ保護

第五十九條 鑛業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄
鑛山監督署長ハ鑛業人ニ其ノ豫防ヲ命ジ又ハ鑛業ヲ停止スヘシ
所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛業ヲ停止セントスルトキハ其ノ猶豫シ難キ
場合ヲ除ク外ハ農務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六十條 前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其豫防ニ著手セサルトキ
ハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ豫防
ヲ執行スヘシ

此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且
一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第六十一條 第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルト

○鑛業條例

百十三

● 鑛業條例

キハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第六十二條 農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ依リ採掘ノ特許ヲ取消シタルトキ又ハ鑛業人廢業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業ノ爲建設シタル家屋及其他ノ建物等ヲ除去セシムヘシ若シ右期限内ニ除去セサルトキハ其ノ建物等ハ土地所有者ノ所有ニ歸ス但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲ニ必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ鑛業人ノ所在不分明ナルトキハ第五十二條第二項ノ手續ニ依ルヘシ

第六十三條 農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍内ニ於テ省令ヲ以テ鑛業警察規則ヲ定ムルコトヲ得

第六章 鑛夫

第六十四條 鑛夫トハ鑛物採掘及之ニ附屬スル業務ニ従事スル男女ノ職工ヲ謂フ
鑛業人ハ其ノ使役スル鑛夫ノ使役規則ヲ定メ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條 鑛業人ト鑛夫トノ間ニ特別ノ約定ナキ場合ニ於テ双方トモ十四日以前ニ通知スルトキハ雇役ノ解約ヲナスコトヲ得

第六十六條 左ノ場合ニ於テハ鑛業人ハ何時タリトモ鑛夫ヲ解雇スルコトヲ得

- 一 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ行爲アルカ若クハ命令ヲ遵守セザルトキ
 - 一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ對シ粗暴ノ所爲アリタルトキ
 - 一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘザルトキ
 - 一 鑛業ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキ
- 第六十七條 左ノ場合ニ於テハ鑛夫ハ何時タリトモ其ノ雇役ヲ罷ムルコトヲ得

- 一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘザルトキ
 - 一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ於テ虐待シタルトキ
 - 一 約定ノ賃錢又ハ報酬ヲ給與セザルトキ
- 第六十八條 鑛業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル鑛夫ノ請求ニ依リ從來ノ業務年限、本人ノ技能、賃錢及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

○ 鑛業條例

鑛業人證明書ヲ與フルコトヲ拒ムカ又ハ鑛夫ニ於テ證明書中不當ト認ムル事項アルトキハ所轄鑛山監督署員若クハ警察官ニ申告スルコトヲ得

第六十九條 鑛業人ハ鑛夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ仕拂フヘシ鑛夫ノ請求アルコアラサレハ物品ヲ以テ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十條 鑛業人ハ鑛夫名簿ヲ備ヘ置キ氏名、年齢、本籍、職業雇入及解雇ノ年月日ヲ記入スヘシ

第七十一條 農商務大臣ハ左ニ記載スル制限内ニ於テ省令ヲ以テ鑛夫工役規則ヲ定ムルコトヲ得

一 一日十二時間以上ノ就業時間ヲ制限スルコト

一 女工ノ工役ノ種類ヲ制限スルコト

一 十四年以下ノ男女職工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルコト

第七十二條 鑛業人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ雇入鑛夫ヲ救恤スヘシ其ノ救恤規則ハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

一 鑛夫自己ノ過失ニ非スシテ就業中負傷シタル場合ニ於テ診察費及療養費ヲ補給スルコト

一 前項ノ場合ニ於テ鑛夫ニ療養休業中相當ノ日當ヲ支給スルコト

一 前項ノ負傷ニ由リ鑛夫ノ死亡シタルトキ埋葬料ヲ補給シ及遺族ニ手當ヲ支給スルコト

一 前項ノ負傷ニ由リ痲疾トナリタル鑛夫ニ期限ヲ定メ補助金ヲ支給スルコト

第七章 鑛業税及鑛區税

第七十三條 鑛業人ハ鑛業税トシテ鑛業製産物ノ價格百分ノ一鑛區税トシテ鑛區一千坪毎ニ一箇年金三十錢ヲ納ムヘシ但一千坪未滿ノ端數ニ對スル鑛區税ハ之ヲ免除ス

第七十四條 前條鑛業製産物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣ノ告示スル所ニ依ル但市場ノ相場ナキモノハ其ノ販賣代價ニ依ル

第七十五條 鑛業税ハ前年分ヲ毎年三月三十一日限ニ又廢業ノ年ニ係ルモノハ廢業ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

鑛區税ハ一箇年分ヲ其ノ前年十二月十五日限ニ又初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ採掘出願特許ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ其ノ廢業ノ年ニ係ルモノハ之ヲ返付セス

第七十六條 鑛業人納税期限内ニ鑛業税及鑛區税ヲ納メサルトキハ農商

○鑛業條例

百十八

務大臣ハ、堀ノ特許ヲ取消スコトヲ得其ノ取消ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルヲ得

第八章 罰則

第七十七條 第二十四條第二十五條ヲ犯シタル者ハ二十拾圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 特許ヲ得スシテ探堀ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ特許ヲ得タル者ハ拾五圓以上百五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 認可ヲ得スシテ試堀ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ認可ヲ得タル者又ハ認可ノ期限ヲ過キ尙ホ試堀ヲ爲シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 第二十七條ヲ犯シタル者及第五十九條ノ豫防ニ着手セサル者又ハ第六十二條但書ノ規定ヲ犯シタル者ハ拾五圓以上百五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條第一項及第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條 第十條ヲ犯シタル者ハ其ノ賣得金半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十二條 第十一條ノ販賣代價ヲ隱匿シタル者ハ其ノ隱匿シタル金額ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十三條 第三十九條ニ依リ届出ツヘキ事項ヲ詐テ逋税シタル者ハ其ノ逋税金額ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ逋税ニ關セサル事項ニ係ルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條 第四十條ノ帳簿ヲ調製セス若クハ記載ヲ怠リ若クハ詐テ記載シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條 第六十四條第二項第六十九條及第七十二條ヲ犯シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 第六條第三十七條第六十八條及第七十條ニ違背シタル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十七條 第八十一條第八十二條及第八十三條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ其ノ納付スヘキ金額ヲ追徴シ其ノ罪ヲ問ハス

第八十八條 此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

鑛業ニ未成年瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此ノ罰則ヲ犯シタルトキハ其ノ後見人ヲ處罰ス

○鑛業條例

百十九

●大藏省證券條例

第九章 附則

第八十九條 此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試堀人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試堀又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得

第九十條 此條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期以前ニ此ノ條例ニ依リ出願スヘシ

第九十一條 此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十二條 此ノ條例ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政官第二百五十九號布告日本坑法ハ同日限之ヲ廢止ス

●大藏省證券條例明治十七年九月第二十四號布告

大藏省證券條例別紙ノ通制定ス

(別紙)

大藏省證券條例

第一條 大藏省證券ハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スルモノトス

第二條 大藏省證券ハ無記名利付定期拂ニシテ其發行シタル年度ノ歳入ヲ以テ仕拂ヲ爲ス者トス

第三條 大藏省證券ノ發行金額及利子金額ハ大藏卿之ヲ豫定シ太政官ノ

裁可ヲ受クヘシ

第四條 大藏省證券ハ百圓五百圓千圓五千圓壹萬圓及拾萬圓ノ六種ニ別

チ其仕拂期限ハ十二箇月以内トス(明治二十六年十二月法 第十九號ニテ改正)

第五條 大藏省證券ハ何人コテモ授受賣買スルヲ得

第六條 大藏省證券ノ仕拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ取扱

ハシムヘシ

第七條 大藏省證券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ニ至リ日本銀行本支店又ハ

代理店ニ於テ其仕拂ヲ請求スヘシ但仕拂ハ通貨ヲ以テスルモノトス

第八條 大藏省證券ハ其仕拂ノ期日ヨリ起算シ滿六ヶ月間ハ之ヲ仕拂フ

ヘシ滿六ヶ月ヲ過ルトキハ一切仕拂ヲ爲サ、ルモノトス但仕拂期日後

ハ利子ヲ付セサルモノトス

第九條 大藏省證券汚染又ハ毀損セントキハ日本銀行本支店又ハ代理店

ニ差出シ證券ノ引換ヲ請フヘシ但其券面金額記號番號及ニ主要ノ印部

ヲ檢査シ其真正タルヲ證認シ得ヘキ者ニアラサレハ引換サルヘシ

第十條 ●大藏省證券ノ所持人其證券ヲ失セントキハ其事由並ニ券面ノ

金額仕拂期日記號番號及ヒ所有セントキノ手續ヲ詳記シ日本銀行本支

店又ハ代理店ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證券ノ授受賣買引換

○大藏省證券條例

○通貨及證券模造取締法

百二十二

及ヒ仕拂テ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

第十一條 亡失セシ證券ハ之ヲ發見セサルモ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ満足スル保證人二名以上ノ證明アルニ於テハ其元利金額ヲ仕拂フヘシ

第十二條 大藏省證券ヲ偽造若クハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ス

●通貨及證券模造取締法 明治二十八年四月 法律第二十八號

第一條 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違犯シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ

第四條 第一條ニ掲ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

●銀行條例 明治二十三年八月 法律第七十二號

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲換事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用ヰルニ拘ラス總テ銀行トス

第二條 銀行ノ事業ヲ營ントスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 銀行ハ每半箇年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條 銀行ハ每半箇年財産目錄、貸借對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五條 銀行ノ營業時間ハ午前九時ヨリ午後三時迄トス

第六條 銀行ノ營業時間ハ午前九時ヨリ午後三時迄トス

第七條 銀行ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及銀行營業地ニ行ハル、定例ノ休日トス但止テ得サル事故アルトキハ地方長官ニ届出テ豫メ新聞紙

第八條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務ノ實況及財産ノ現況ヲ檢査セシムルコトヲ得

○銀行條例

百二十三

○銀行條例施行細則

百二十四

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスニテ銀行ノ事業ヲ營ミタル者ハ商法第二百五十六條ノ例ニ依テ處分ス

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告中若ハ公告中ニ詐僞ノ陳述ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ商法第二百六十二條ノ例ニ依テ處分ス

第八條ノ檢査ヲ受ルコトヲ拒ミタルトキハ商法第二百五十八條ノ例ニ依リテ處分ス

第十一條 此條例ハ日本銀行橫濱正金銀行國立銀行ニ適用セス

●銀行條例施行細則 明治二十六年五月十日大藏省令第七號

第一章 銀行ノ設立

第一節 合名會社及ヒ合資會社

第一條 合名會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ營業科目、資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ會社契約及ヒ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第一 會社ノ社名及ヒ營業所

第二 各社員ノ氏名

第三 開業セントスル年月日

第四 業務擔當社員ヲ特定メタルトキハ其氏名及ヒ住所

第五 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第二條 合資會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ營業科目、資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ會社契約及ヒ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第一 各社員ノ出資額

第二 會社ノ社名及ヒ營業所

第三 各社員ノ氏名

第四 開業セントスル年月日

第五 無限責任社員アルトキハ其氏名

第六 業務擔當社員ノ氏名及ヒ住所

第七 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第三條 合名會社合資會社ハ大藏大臣ノ認可ヲ得テ設立シタルトキハ事業着手前ニ商法第七十九條又ハ同法第三百三十八條ノ事項ヲ登記スルノ手續ヲ爲スヘシ

○銀行條例施行細則

百二十五

第四條 合名會社合資會社營業科目、資本金額及ヒ存立時期ヲ變更セシムルトキハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書ヲ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

會社契約及ヒ參考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルトキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第五條 前條ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ商法第八十條ノ登記ヲ要スルトキハ認可ヲ得ル後七日以内ニ其登記ヲ受クヘシ

第六條 合名會社合資會社ハ認可並ニ登記ヲ要スル事項ニツキテハ大藏大臣ノ認可ヲ得ルモ商法第七十八條又ハ同法第八十條ノ登記ヲ受ケサルカ若クハ同法第八十二條ニ依リ登記ノ效ヲ失ヒタルトキハ其認可ノ效力ヲ生セサルモノトス

第二節 株式會社

第七條 株式會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ四人以上ノ發起人連署捺印シテ目論見書及ヒ假定款ヲ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ發起ノ認可ヲ請フヘシ

第八條 創業總會ノ終リシ後發起人ハ營業科目、資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ目論見書、定款、株式申込

簿、發起ノ認可證及ヒ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一 會社ノ社名及ヒ營業所

第二 取締役ノ氏名及ヒ住所

第三 開業セントスル年月日

第四 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第九條 株式會社設立ノ認可ヲ得テ發起人ヨリ事務ノ引渡シヲ爲シタルトキハ取締役ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ株主ヲシテ株金ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

前項ノ拂込金額各株式ノ四分ノ一以上ニ達スルトキハ事業着手前ニ商法第六十八條ニ依リ登記ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 株式會社營業科目、資本金額及ヒ存立時期ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ更ラニ願書ヲ大藏大臣ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

會社定款及ヒ參考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルトキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十一條 株式會社ハ前條ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ商法第二百

○銀行條例施行細則

百二十八

十條ノ登記ヲ要スルトキハ認可ヲ得タル後直ニ其登記ヲ受クヘシ
第十二條 株式會社ハ認可並ニ登記ヲ要スル事項ニツキテハ大藏大臣ノ認可ヲ得ルモ商法第六十八條又ハ同法第二百十條ノ登記ヲ受ケサルカ若クハ同法第七十條及第八十二條ニ依リ登記ノ枚ヲ失ヒタルトキハ其認可ノ效力ヲ生セサルモノトス

第三節 各 人

第十三條 各人ニ於テ銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ營業科目並ニ資本金額ヲ記載シタル願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第一 營業所

第二 開業セントスル年月日

第三 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第十四條 營業科目及ヒ資本金額ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書ヲ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ
參考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルトキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第二章 營 業

第十五條 銀行ハ營業上一切ノ取引ニ使用スル印章ヲ定メ其印鑑ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ改印スルトキモ亦同シ
第十六條 本店及ヒ支店ニ於テ營業ヲ開始スルトキハ地方長官ヲ經由シ其期日ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ
第十七條 銀行ハ其名稱ヲ掲牌ニ記載シ營業時間中ハ之ヲ其銀行ノ店前公衆ノ目ニ觸レ易キ所ニ掲クヘシ
第十八條 銀行ニシテ支拂ヲ停止スルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ
第十九條 各人ニシテ銀行ノ營業ヲ營ムモノ其事業ヲ廢止スルカ又ハ破産ヲ宣告セラレタルモノアルトキハ地方長官ハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ
第二十條 合名會社合資會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ其營業ヲ廢止スルカ又ハ解散スルトキハ地方長官ハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ
第二十一條 株式會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ其營業ヲ廢止スルカ又ハ破産ヲ宣告セラレタルモノアルトキハ地方長官ハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

○銀行條例施行細則

百二十九

商法第二百三十四條及同法第二百五十五條第二項ノ届出ハ地方長官
ヲ經由シ之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

第二十二條 地方長官ハ銀行ニシテ法令ニ違反スルモノアリト認ムルト
キハ其事狀ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告シ其指揮ヲ請フヘシ

第三章 報告及ヒ公告

第二十三條 銀行條例第三條及ヒ第四條ノ半箇年ハ毎年一月ヨリ六月マ
テ及ヒ七月ヨリ十二月マテトシ之ヲ銀行ノ營業年度トス

第二十四條 銀行條例第三條ノ營業報告書ハ附屬雛形ニ準シテ調製シ毎
營業年度經過後一箇月以内ニ之ヲ發送スヘシ但シ遠隔ノ地ニ支店ヲ有
シ本條ノ期日内ニ報告書ヲ發送スル能ハサルモノハ地方長官ヲ經由シ
豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ其期日ヲ定ムルコトヲ得

第二十五條 銀行ハ前條ノ報告書ヲ發送スルト同時ニ銀行條例第四條ノ
公告ヲ爲スヘシ

第二十六條 銀行ノ營業所アル地方ニ於テ刊行スル新聞紙アルトキハ他
地方ノ新聞紙ニ公告スルト否トニ拘ラス所在地方ノ新聞紙ニ公告スル
ヲ要ス

銀行ノ營業所アル地方ニ刊行ノ新聞紙ナキトキハ最寄地方又ハ取引先

多キ地方ノ新聞紙ニ公告シ尙ホ營業所ノ店前ニ掲示シテ公告スヘシ

第二十七條 銀行條例第七條但書ニ依リ休業セントスルモノハ少ナク
モ三日以前地方長官ニ届出テ同時ニ銀行ノ營業所アル地方ニ於テ刊行
スル新聞紙ニ公告スヘシ

銀行ノ營業所アル地方ニ刊行ノ新聞紙ナキトキハ營業所ノ店前其他公
衆ノ目ニ觸レ易キ場所ニ少ナクモ三日以前ヨリ公告スヘシ

第二十八條 銀行ヨリ大藏大臣ニ差出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由
スヘシ

地方長官ハ前項ノ書類ヲ調査シ意見アルトキハ之ヲ添付シテ大藏大臣
ニ送付スヘシ

第四章 檢 査

第二十九條 銀行條例第八條ニ依リ檢査ヲ爲ストキハ其檢査ヲ命セラレ
タル官吏ハ檢査官タル證據ヲ携帶スヘシ

第三十條 銀行ハ檢査官ニ於テ檢査上必要トスル營業用ノ金匣、財産現
在高、帳簿及ヒ總テノ書類ハ其ノ要求ニ應シテ之ヲ示シ又ハ説明ヲ爲
スヘシ

第三十一條 檢査官檢査ヲ終了シタルトキハ其檢査ノ顛末ヲ速ニ大藏大

○貯蓄銀行條例

臣ニ報告スヘシ

第五章 補 則

第三十二條 銀行條例實施前ヨリ既ニ設立シタル株式會社ニシテ銀行ノ營業ヲ營ムモノ銀行條例施行後ニ其營業ヲ繼續セントスルトキハ商法施行條例第十條ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 銀行條例實施前ヨリ既ニ設立シタル合名會社合資會社又ハ各人ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ銀行條例施行後ニ其事業ヲ繼續セントスルトキハ本規則第一條第二條又ハ第十三條出願ノ手續ニ準據シ本年六月三十日マテニ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ届出ツヘシ
前項届出ヲ爲サ、ルモノハ總テ新ニ其事業ヲ開始スルモノト見做スヘキヲ以テ本規則第一章ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

●貯蓄銀行條例 明治廿三年八月 法律第七十三號

第一條 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス

銀行ニ於テ新ニ一口五圓未滿ノ金額ヲ定期預リ若ハ當座預リシテ引受ルトキハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ム者ト爲シ此條例ニ依ラシム

第二條 資本金三萬圓以上ノ株式會社ニアラサレハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ム

コトヲ得ス

第三條 貯蓄銀行ノ取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス

但其責任ハ退任後二箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第四條 貯蓄銀行ハ蓄貯預金拂戻ノ擔保トシテ預金總高ノ四分ノ一ヨリ少ナカラサル金額ヲ利付國債證券又ハ地方債證券ニテ備ヘ置キ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ

但擔保金額カ資本金半額以上ニ及フトキハ商業手形及確實ナル會社ノ債券又ハ株券等ヲ用ヰルコトヲ得

第五條 刪除

第六條 刪除

第七條 貯蓄銀行ニ於テ其定款ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 銀行ニシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 貯蓄銀行ニシテ此條例ノ規定ニ違反シタルトキハ其取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○貯蓄銀行條例施行規則

○貯蓄銀行條例施行規則

百三十四

貯蓄銀行ニアラスンテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルトキハ營業主又ハ會社ノ業務擔當社員若ハ取締役ヲ前項ノ罰ニ處ス

第十條 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル

○貯蓄銀行條例施行細則 明治廿六年五月一日 大藏省令第八號

第一條 貯蓄銀行條例第四條ノ利付國債證券ハ營業著手ノ日ヨリ三日以

内ニ明治二十三年大藏省令第三十九號供託物取扱規程第二條ノ手續ニ依リ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ

資本金額ヲ増加シタル場合ニ於テハ拂込期日ヨリ三日以内ニ前項ノ預入ヲ爲スヘシ

本規則第五條ノ認可ヲ受ケントスルモノハ貯蓄銀行條例施行後三日以内ニ第一項ノ供託ヲ爲スヘシ

第二條 證券供託ノ手續ヲ了シタルトキハ直ニ供託所受領證ノ寫ヲ添付シテ地方長官ニ届出ツヘシ

第三條 既ニ供託シタル證券ノ全部又ハ一部ノ返戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ返戻ヲ求メントスル證券ノ種類、番號、券面金額ヲ記載シ地方長官ニ出願シ其承認ノ證憑ヲ提出シ供託物取扱規程第十條ノ手續ニ依リ供託所ニ請求スヘシ

第四條 貯蓄銀行ノ事業報告書ハ附屬雛形ニ準シ調製スヘシ

第五條 貯蓄銀行條例實施前ヨリ貯蓄預金ノ事業ヲ營ム株式會社ニシテ貯蓄銀行條例施行後ニ其事業ヲ繼續セヨトスルモノハ商法施行條例第十條ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 本規則ニ規定セサルモノハ總テ銀行條例施行細則ニ依ル

○滙込紙製造取締規則 明治二十年七月勅令 第三十六號

第一條 文字畫紋ヲ滙入レタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添ヘ管轄

府廳ニ届出ヘシ違フ者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條 紙幣兌換銀行券公債證券大藏省証券其他政府發行ノ証券ニ類似

ノ文字畫紋又ハ凸ニ文字畫紋ヲ滙入レタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコ

トヲ禁ニ違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

○取引所法 明治廿六年三月三日 法律第五號

第一章 取引所ノ設立

第一條 賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若ハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第二條 同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限リ設立ス

○滙込紙製造取締規則

百三十五

ルコトヲ得但シ其ノ地區ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第四條 株式會社組織ノ取引所ハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ

第二章 取引所ノ組織

第五條 取引所ハ土地商業ノ情況及賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人及會員ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第七條 取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得

取引所ノ責任ハ其ノ財産ニ限ルモノトス

第八條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ營業部類ニ屬スル商品ノ倉庫ヲ設置シ及指圖式ノ倉荷證書ヲ發行スルコトヲ得「取引所ハ其ノ倉荷證書ニ對シ前貸ヲ爲シ又ハ買受クルコトヲ得ス

第九條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三章

取引所ノ會員、株主及仲買人

第十條 一箇年以上取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ハ定款ノ規程ニ從ヒ其ノ取引所ノ會員トナルコトヲ得

二箇年以上其ノ取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ニシテ年齢二十五歳以上ノ者ハ政府ノ免許ヲ受ケ其ノ取引所ノ仲買人トナルコトヲ得

一種ノ商業ニ付前項ノ資格ヲ有スル者ハ土地商業ノ情況ニ依リ二種以上ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ノ仲買人タル免許ヲ受クルコトヲ得

第十一條 帝國臣民ニ非サレハ取引所ノ會員、株主又ハ仲買人トナルコトヲ得ス

婦女、未成年者、公權剝奪及停止中ノ者復權セサル破産者及家資分散者竝ニ取引所ニ於テ除名ノ處分ヲ受ケタル者ハ取引所ノ會員タルコトヲ得ス

重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用ヲ害スル罪、財産ニ對スル罪、商業及農工業ヲ妨害スル罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレ其ノ滿期若ハ赦免後二箇年ヲ經サル者及前項ニ該當スル者ハ取引所ノ仲買人タルコトヲ得ス

○取引所法

百二十八

第十二條 取引所ノ會員ハ自己ノ計算ヲ以テスルノ外取引所ニ於テ賣買

取引ヲ爲スコトヲ得ス

仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス取

引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條 取引所ノ仲買人ハ其ノ免許ヲ受クルトモ免許料ヲ納ムヘシ

第十四條 取引所ノ會員及仲買人ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十五條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲定款ノ規定ニ依リ會員又ハ仲買人ノ營業ヲ停止シ五百圓以内ノ過怠金ヲ課シ且政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ仲買人ヲ除名スルコトヲ得

第四章 取引所ノ役員

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年

以内ノ任期ヲ以テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ノ役員左ノ如シ

理事長 一人

理事 二人以上

監査役 若干人

理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケナシ

第十一條 第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

第十七條 取引所ノ役員及雇人ハ其ノ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス但シ監査役ハ此ノ限ニ在ラス

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ハ直取引延取引及定期取引ノ三種トス

第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條 株式會社組織ノ取引所ハ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責ニ任スヘシ

前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十三條 取引所ハ賣買取引高ニ應ジ賣買雙方ヨリ手数料ヲ徵收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

○取引所法

百三十九

○取引所法

百四十

第二十四條 取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十五條 取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ハ公定相場トス

第六章 取引所ノ監督

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 取引所ノ解散
- 二 取引所ノ停止
- 三 取引所一部ノ停止若ハ禁止
- 四 役員ノ解職
- 五 會員又ハ仲買人ノ營業停止若ハ除名

第二十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産其ノ他一切ノ物件及會員又ハ仲買人ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及仲買人ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第二十九條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシ

メ又ハ其ノ決議及處分ヲ停止シ禁止シ若ハ取消スコトヲ得

第三十條 取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七章 罰 則

第三十一條 第十二條第一項第十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第二十五條ニ違背シタル者及公定相場ヲ偽リタル者ハ五拾圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第三十三條 取引所ノ規則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料及積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所

○取引所法

百四十一

○取引所法施行細則

百四十三

ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲サ、ルモノハ此ノ限ニ在ラス

明治二十六年七月二十二日
農商務省令第十三號

第一條 會員組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ記載シタル發起認可申請書ニ假定款及發起人ノ履歷書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

- 一 取引所ノ組織名稱位置
- 二 資本金及發起人各自ノ引受クル餘金額
- 三 資本金使用ノ概算
- 四 賣買取引スヘキ物件
- 五 取引所ノ地區ト爲サント欲スル市町村名
- 六 設立ヲ要スル事由
- 七 賣買取引スヘキ物件ノ其市街内ニ於ル集散ノ沿革及現況
- 八 其市街内會員又ハ仲買人タルヲ得ヘキ商人ノ概數但各賣買品毎ニ區別スヘシ

第二條 株式會社組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ商法第

百五十九條ニ據リ提出スヘキ發起認可申請書ニ第一條第四號乃至第八號ノ事項ヲ記載シタル書面及發起人ノ履歷書ヲ添ヘ農商務大臣ニ提出シ認可ヲ受クヘシ

第三條 農商務大臣取引所ノ地區ヲ定メタルトキハ隨時之ヲ告示スヘシ

第四條 取引所設立發起人ノ人員ハ賣買取引セントスル物件ノ各種類毎ニ十五人以上タルヘシ

發起人ハ賣買取引セントスル物件ノ各種類ニ對シ人員ノ二分一以上ハ其種類ノ營業者ニシテ會員組織ノ取引所ニ於テハ會員又ハ仲買人株式會社組織ノ取引所ニ於テハ仲買人タルノ資格ヲ有スル者タルヘシ

第五條 取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ但其他必要ノ事項ハ之ヲ掲載スヘシ

- 一 取引所ノ名稱位置及地區
- 二 賣買取引スヘキ物件
- 三 資本金、株式ニ關スル事項
- 四 會員仲買人ノ入退、身元保證金、組合、代理人ニ關スル事項
- 五 役員ノ選舉及其職務ニ關スル事項
- 六 會議ニ關スル事項

○取引所法施行細則

百四十三

○取引所法施行細則

- 七 取引所手数料仲買人口錢ニ關スル事項
- 八 仲買人ノ業務ニ關スル事項
- 九 市場ノ開閉及休業ニ關スル事項
- 十 賣買及受渡ニ關スル事項
- 十一 倉庫ニ關スル事項
- 十二 公定相場ニ關スル事項
- 十三 取引所ノ帳簿、記録及會員仲買人ノ帳簿ニ關スル事項
- 十四 取引所ノ出納決算ニ關スル事項
- 十五 準備ノ積立金保管及出納ニ關スル事項
- 十六 仲裁ニ關スル事項
- 十七 違約處分ニ關スル事項
- 十八 定款ノ變更及解散ニ關スル事項
- 第十九 會員組織ノ取引所ノ發起人ニ於テ發起ノ認可ヲ得タルトキハ少クトモ十四日間之ヲ公告シ會員ヲ募集スヘシ其公告中ニハ認可ノ年月日、第一條第一號乃至第四號ノ事項、取引所ノ地區及發起人ノ氏名ヲ掲載シ且各會員申込人ニ假定款ヲ展閱セシムル旨ヲ附記スヘシ
- 株式會社組織ノ取引所ニ於テ日論見書ヲ公告シ株主ヲ募集スルトキハ

- 其公告中ニハ商法第六十條規定ノ外第一條第四號ノ事項及取引所ノ地區ヲ掲載スヘシ
- 第七條 會員組織ノ取引所ノ發起人ハ會員ヲ募集シタル後創業總會ヲ開クヘシ其總會ニ於テ總會員申込人ノ半數以上ノ承諾ヲ得テ定款ヲ定メ役員ヲ選舉シ後ニ設立免許申請書ニ會員申込簿ヲ添ヘ農商務大臣ヘ差出シ免許ヲ受クヘシ
- 株式會社組織ノ取引所ノ發起人ハ商法第六十六條ニ據リ設立免許申請書ヲ農商務大臣ニ差出シ免許ヲ受クヘシ
- 取引所ノ發起人ハ設立免許申請ト同時ニ定款及役員認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ但役員ノ履歷書ヲ添付スヘシ
- 第八條 役員ノ認可ヲ得タルトキハ發起人其事務ヲ役員ニ引渡スヘシ
- 第九條 役員ニ於テ開業ノ準備ヲ整頓シタルトキハ開業ノ日ヲ定メ農商務大臣ニ届出ツヘシ但株式會社組織ノ取引所ニ於テハ開業届出前ニ營業保證金納入ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十條 取引所ハ設立ノ免許ヲ得タル日ヨリ六箇月以内ニ開業セザルトキハ其免許ノ効力ヲ失フモノトス
- 第十一條 取引所ノ仲買人ノ免許ヲ得ントスル者ハ其願書ニ履歷書ヲ添

○取引所法施行細則

○取引所法施行細則

百四十六

農商務大臣ニ差出スヘシ

第十二條 農商務大臣仲買人ノ免許ヲ與ヘタルトキハ地方長官ヲ經由シ
免許狀ヲ取引所ニ送付シ取引所ハ免許料ノ金額ニ相當スル登記印紙ヲ
貼用シタル受書及身元保證金ヲ差出サシメタル上之ヲ本人ニ交付スヘ
シ

免許狀ノ受書ハ速ニ取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十三條 仲買人廢業シタルトキハ免許狀ヲ添へ農商務大臣ニ届出ツヘ
シ

第十四條 仲買人免許狀ヲ紛失シタルトキハ寧由テ具シ農商務大臣ニ申
出テ更ニ其交付ヲ請フヘシ

仲買人氏名ヲ變更シタルトキハ免許狀ヲ添へ農商務大臣ニ申出テ書換
ヲ請フヘシ

第十五條 取引所ハ左ノ報告書ヲ調製シ各期限ニ從ヒ農商務大臣ニ差出
スヘシ

- 一 毎日公定相場表
- 二 毎月賣買表
- 三 毎月商品集散及商況報告

以上翌月十五日限リ發送

四 收支豫算表

以上議定後十五日限リ發送

五 每半季財産目錄

每半季貸借對照表

六 每半季損益計算表

七 每半季末日現在會員、株主、仲買人氏名表

八 以上決算期後二十日限リ發送

第十六條 取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ文書ハ總テ地方長官ヲ經
由スヘシ

地方長官ハ前項書類ヲ接受シタルトキハ意見書ヲ添附シテ之ヲ農商務
大臣ニ差出スヘシ但取引所設立發起認可申請書ヲ接受シタルトキハ特
ニ發起人ノ身元ヲ詳查スヘシ

第十七條 仲買人ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ文書ハ總テ之ヲ取引所
差出シ取引所ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

●取引所税法明治二十六年三月三日
法律第六號

第一條 取引所ハ定期賣買ニ付左ノ割合ニ從ヒ税金ヲ納ムヘシ

○取引所税法

百四十七

○取引所税法

百四十八

- 一 商品、有價証券 賣買各約定代金高萬分ノ六箇
- 一 國債及地方債証券 同 萬分ノ三箇
- 第二條 定期内ニ於ケル轉賣人ノ賣高及買戻人ノ買高ニ係ル税金ハ之ヲ免除ス
- 第四條 取引所ハ每一箇月分賣買取引ヲ爲シタル各約定代金高ヲ翌月五日迄ニ管廳ニ届出ヘシ
- 取引所税額ハ前項ノ届出ニヨリ地方長官之ヲ定ム
- 第五條 取引所税金ハ每一箇月分ヲ翌月二十日マテニ納ムヘシ
- 第六條 當該官吏ハ地方長官ノ命令ニ依リ隨時取引所並ニ會員仲買人ニ就キ其ノ賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ檢査スルコトアルヘシ
- 第七條 第四條ノ届出ヲ詐リ脱税ヲ圖リ又ハ脱税シタルトキハ取引所理事長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍取引所ヨリ其ノ脱税ニ係ル金額ヲ徴收スヘシ
- 第八條 第四條ノ届出ヲ怠リタルトキハ理事長ヲ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

附 則

- 第十條 本法ハ取引所法實施ノ日ヨリ施行ス
○議會并議員保護 明治二十二年十一月七日 法律第二十八號
- 第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ公訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
- 第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
- 第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毀傷シタル者ハ刑法毆打創

○議會并議員保護

百四十九

○衆議院議員選舉法罰則

傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

●衆議院議員選舉法罰則(明治二十二年二月第三號法律ハ)

(罰則ノミヲ掲ケ他ハ省略ス)

第八十九條 納稅額年齡住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ

選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲

スコトヲ打止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私

ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上

五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授

與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ

若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條

ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サ、ル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ

爲スコトヲ抑止スル目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上

六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條

選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ

若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ

輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條

選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票

函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以

上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁

錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十五條

選舉ノ際管轄者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投

票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ

四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加

ス

第九十六條

多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁獄ニ處ス

其情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ

處ス

○衆議院議員選舉法罰則

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ
第九十七條 演説又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前
ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ功ナキ者
モ仍本刑ニ二等ヲ減シ處ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者
三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ
處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉
人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四拾圓以下ノ罰
金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑
ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺ク
トキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條ナルモノハ各々其ノ條
ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第一百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス
第一百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示ス
ヘシ

●衆議院議員選舉法罰則補則 明治二十三年五月廿九日
法律第四十號

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲
スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉會場又ハ投票所ノ近傍若クハ選舉
人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場若クハ投票所ニ
往復スル爲車馬ノ類ヲ給シ及其供給ヲ受ケタル者又ハ選舉人ノ爲ニ選
舉會場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代
辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シ及其ノ代辨又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議
院議員選舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其
往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル
者ハ衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者
ハ衆議院議員選舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス
第三條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當

○衆議院議員選舉法罰則補則

○府縣會議員選舉規則

百五十五

選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 選舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多
聚集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法
螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシテ喧嘩其他ノ標章ヲ用ケル等ノ所業ヲ爲シ警察官ヲ
制止ヲ受クルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ
處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ
貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 當選人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院
議員選舉法第九十九條ノ例ニ依ル

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選舉法第四百四條ノ例ニ依ル
○府縣會議員選舉規則 明治二十二年二月廿六日
法律第六號

第一條 戶長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ撰舉人名原簿ヲ調
査シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ撰舉人名原簿ニハ撰舉人
ノ氏名、住所、生年月、納ムル所ノ地租ノ總額並ニ其納稅地ヲ記載ス

第二條 郡長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期ト
シ其役場管内ノ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ

第三條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ撰舉人名原簿ヲ調
製シ十月十五日ヲ期トシ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ 撰舉人名原簿ニ記
載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ

第四條 府縣會議規則第十三條ノ年齢及ヒ年限ヲ算スルハ撰舉人名簿調製
ノ期日ヲ以テ限界ト爲シ其地租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前
一年以上之ヲ納メ猶引續キ納ムル者ニ限ルヘシ但家督ニ依リ財産ヲ相
續シタル者ハ前財産ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ算入スヘシ

第五條 撰舉人其住居スル區町村ノ外ニ於テ地租ヲ納ムルトキハ其納稅
地區戶長ノ証狀ヲ添ヘ撰舉人名原簿調製ノ期日迄ニ其住居地ノ區戶長
ニ届出ヘシ 前項ノ届出ヲ爲サ、ル納稅額ハ撰舉及ヒ被撰舉ノ資格ニ
算入スルコトヲ得ス

第六條 郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役場管内ノ撰舉人名原簿及
ヒ撰舉人名簿ノ寫ヲ其郡區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ但關係者ノ請求
アルトキハ戶長役場ニ於テモ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示スヘシ

第七條 撰舉資格アル者撰舉人名簿ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見
○府縣會議員選舉規則
百五十五

○府縣會議員選舉規則

シタルトキハ其縦覽期限内ニ之ヲ郡區長ニ申立ヘシ

第八條 郡區長ニ於テ脱漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其申立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ

第九條 前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ得

第十條 申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラズ速ニ其裁判ヲ爲スヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サス但其裁判ハ上告人爲メ停止セサルモノトス

第十三條 撰舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ据置クモノトス但裁判言渡ニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタルトキヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其由ヲ管

内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ
前項ノ外次年ノ改正期日前ト雖モ撰舉ヲ行フ前ニ於テ撰舉權ヲ失ヒ若クハ撰舉權ヲ有セザリシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人名ヲ削除スヘシ 毎年確定ノ撰舉人名簿ハ臨時ノ補缺撰舉ニモ之ヲ使

第十四條 撰舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補闕撰舉ノ場合ハ此限ニ在ラス 前項ノ時期ハ府縣ノ情況ニ依リ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ取リ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 議員ヲ選舉スヘキトキハ少ナクトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日、選舉開會並ニ投票函閉鎖ノ時刻撰舉ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ選舉スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ若シ正議員ノ外補闕員ノ増選ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ 選舉開會ヨリ投票函閉鎖迄ノ時間ハ四時間以上十時間以内タルヘシ

第十六條 前條ノ告示アリタル中ハ郡區長ハ前條各事項並ニ選舉開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

第十七條 郡區長ハ其管内ノ選舉人中ヨリ立會人五名ヲ定メ遅クトモ選

○府縣會議員選舉規則

○府縣會議員選舉規則

百五十八

舉ノ期日ヨリ五日以前ニテ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉會場ニ參會セシムヘシ 選舉分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ本會分會トモ各其會場所屬ノ選舉人ニ就キ前項ニ依リ立會人ヲ定ムヘシ 立會人ハ正當ノ專故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ス立會人若シ選舉開會ノ時刻ニ至リ出頭セサルトキハ參會ノ選舉人中最多額ノ地租ヲ納ムル者ヲ以テ假ニ其闕ヲ補フヘシ

第十八條 郡區長ハ選舉會長トナリ選舉會場ヲ管理スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ 選舉會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命スヘシ

第十九條 選舉人ハ選舉開會ノ時刻ヨリ投票函閉鎖ノ時刻ニ至ル迄何時ヲリトモ到着ノ順序ニ從ヒ投票スルコトヲ得

第二十條 撰舉會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及ヒ撰舉錄竝ニ筆墨ヲ備ヘ置クヘシ投票函ハ投票ニ先テ參集シタル撰舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

第二十一條 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用ヒ投票ノ當日撰舉會場ニ備ヘ置キ撰舉會長又ハ書記ヨリ之ヲ各撰舉人ニ交付スヘシ 用紙ハ正議員ノ外補闕員ノ増選ヲ要スル場合ニ

於テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正議員ノ爲メノ用紙ト爲シ乙種ハ補闕員ノ爲メノ用紙ト爲スヘシ

第二十二條 選舉人ハ自ラ投票ヲ行フヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス

第二十三條 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ被選舉人竝ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勳等其他敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ナシ

第二十四條 選舉人投票ヲ爲サントスルトキハ選舉會長ハ其住所氏名ヲ選舉人名簿ニ照シ名簿ニ消印ヲ捺シ選舉人ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

第二十五條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由テ申立ルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ代替セシメ之ヲ本人ニ讀聞セ竝ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシムヘシ

第二十六條 選舉ニ關スル吏員及ヒ選舉人ノ外何人ヲリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニ在ラス

第二十七條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セラレヘキ裁判言渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニ在ラス

第二十八條 選舉人ハ會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若クハ喧噪ニ涉リ又ハ

○府縣會議員選舉規則

百五十九

○海縣會議員選舉規則

五ニ投票ヲ勸誘スルコトヲ得ス

第二十九條 選舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ呼入ルハコトヲ得 選舉會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ選舉會長ハ其投票ヲ取上クヘシ

第三十一條 投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ選舉會ニハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一時選舉會場ノ入口ヲ閉サシメ參會者ニ問フニ未ダ投票セザリシ者ナキヤヲ以テシ若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條 選舉會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘシ

第三十三條 投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ披封點檢シテ之ヲ書記ニ付シ選舉人被選舉人ノ氏名ヲ朗讀セシメ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被選舉人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ 前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發

見シタルトキハ之ニ抹線ヲ加ヘ一部分無効ノ者ハ其部分ニ抹線ヲ加フヘシ

第三十四條 選舉人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ各被選舉人得點ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條 點數記入竝ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ選舉會長竝ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ得タルモノヨリ順次ニ其被選舉權ノ有無ヲ查定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤ヲ用ヒ其當選ヲ定ムヘシ但即時ニ其當選ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其查定ヲ延ハスコトヲ得 分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當選ヲ定ムル者トス 當選タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被選舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次点者ヲ以テ當選ト爲スヘシ 此場合ニ於テハ郡區長ハ當選者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ 當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當選ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 点檢簿ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉會長立會人竝ニ書

○府縣會議員選舉規則

○府縣會議員選舉規則

百六十二

記之ニ捺印スヘシ 前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ一年間那區役所ニ保存スヘシ若シ選舉ニ關シ訴訟又ハ告訴發アルトキハ一年ヲ過グルモ其裁判確定ニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十九條 左ノ事項ハ之ヲ選舉録中ニ記入スヘシ

- 一 選舉開會ノ月日並ニ時刻
 - 二 選舉會長及ヒ書記ノ氏名
 - 三 立會人ノ住所氏名
 - 四 第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其願末
 - 五 投票函閉鎖ノ時刻
 - 六 各被選舉人ノ得点數
 - 七 當選人ノ住所氏名若シ直ニ當選ヲ定メ難キトキハ其事由
 - 八 選舉閉會ノ時刻
 - 九 右ノ外選舉會長ニ於テ緊要ト認ムル事項
 - 十 當選ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記スヘシ
- 第四十條 選舉録ニハ選舉會長立會人竝ニ書記之ニ署名捺印スヘシ
- 第四十一條 當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他那區ノ人ナルトキハ那區長ハ其本籍地ノ那區長ニ照會シ被選舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ

求ムヘシ若シ其權ヲ有セザルトキハ第三十七條第三項ノ例ニ依リ

第四十二條 左ノ投票ハ無効トス

- 一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニ在ラス
- 二 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
- 三 選舉人又ハ被選舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ
- 四 選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカラサルモノ
- 五 選舉人被選舉人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ但位階勳等其他敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ餘事ト見做スノ限ニ在ラス
- 六 被選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ其何人タルヲ知ルヘカラサルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス
- 七 被選舉權ナキ者ヲ記載シタルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス

第四十三條 投票ニ記載ノ被選舉人其選舉スヘキ定數ニ足ラサルモノ之ヲ無効トセス又定數ニ過クルトキハ前條第六第七ニ觸ル、モノアルト否トテ問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ 一人ノ氏名ヲ複記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ

○府縣會議員選舉規則

百六十三

○府縣會館員選舉規則

第四十四條 選舉人又ハ被選舉人ノ住所氏名ニ誤字脱字アリ又ハ假名字ヲ用フルモ其何人ノ何人ヲ選舉シタルコト明瞭ナルトキハ其投票ヲ有効トスヘシ

第四十五條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ選舉會長之ヲ決定スヘシ其決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第四十六條 郡區ノ區域廣濶ニ過ルカ又ハ郡區内島嶼ノ地アリテ選舉人ノ參會ニ不便ナル爲メ己ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ選舉分會ヲ設クルコトヲ得分會ノ爲メ特ニ選舉人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ選舉人名簿中ニ各選舉人所屬ノ會場ヲ區別シ豫メ分會場所屬ノ區域並ニ會場ヲ管内ニ告示スヘシ

第四十七條 分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時間モ亦本會ト同一タルヘシ其他選舉ノ手續會場ノ取締選舉録ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但島嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜其投票ノ期日ヲ異ニシ選舉本會ノ投票期日迄ニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十八條 分會選舉會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ分會書記

ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其地ノ戶長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第四十九條 分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルトキハ之ニ封印シ選舉會長及ヒ書記ノ中少クトモ一名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他ノ選舉人同行ヲ望ム者アルトキハ之ヲ許スヘシ

第五十條 分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到着ヲ待テ第三十三條ノ手續ヲ爲シ合算ノ上總數ヲ以テ當選ヲ定ムヘシ

第五十一條 當選者ノ定マリタルトキハ郡區長ハ直ニ其旨ヲ當選者ニ通知スヘシ 當選者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲スヘシ若シ當選ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十日以内ニ承諾ノ届出ヲ爲サハルトキハ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ 當選ヲ辭シタル者アルトキハ郡區長ハ次點者ヲ以テ當選者ト爲スヘシ

第五十二條 選舉ノ結果ハ郡區長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條 當選者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十四條 府縣會規則第十條第二項ニ依リ補闕員ヲ増選スルトキハ其選舉ハ正議員選舉ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票兩ハ正議員ノ

○府縣會館員選舉規則

○府縣會議員選舉規則

投票函ト異ニスヘシ

第五十五條 一人ニシテ正議員補員ノ選ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員ト爲シ其次點者ヲ以テ補員ト爲スヘシ

第五十六條 當選ノ査定ニ不服アル關係者ハ當選者ノ氏名告示ヨリ十日以内ニ府縣知事ニ其更正又ハ選舉取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサル者ハ二十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但其判決ハ終審トス

第五十七條 當選者確定ノ後其當選者ノ被選舉權ヲ有セザリシコトヲ發見スルトキハ府縣知事ハ其當選ヲ取消シ其次點者ヲ以テ當選ト爲スヘシ但此場合ニ於テハ其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十八條 選舉全會ヲ取消シ更ニ選舉ヲ命スルハ其選舉ノ規定ニ違フ場合ニ限ル但シ定規ニ違フ所アルモ其事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異ヲ生セス又ハ其事ノ更正シ得ヘキ者ハ取消ノ限ニ在ラス 選舉全會ノ取消ハ府縣知事ヨリ內務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲ爲スヘシ但其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十九條 納稅額年齡其他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セザレタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス其被選舉資

格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當選者ト爲リタル者又ハ其資格ヲ有セザルモ其事ヲ告ケズニ當選者ト爲リタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サル者モ亦同シ

第六十一條 武器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ附加ス第六十三條 投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ選舉人

○府縣會議員選舉規則

○衆議院議員選舉法罰則補則ヲ府縣會議員選舉法ニ適用ノ件 百六十八

暴行ヲ加ヘ又ハ選舉人ヲ脅嚇スル者又ハ選舉ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留、毀壞若クハ却奪シタル者ハ二月以上一年以上以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 多衆ヲ嘯集シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知り嘯集ニ應シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 當選者第五十九條乃至第六十四條ノ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第六十六條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 選舉ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第六十八條 府縣會議員選舉規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ抵觸スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

○衆議院議員選舉法罰則補則ヲ府縣會議員選舉法ニ適用ノ件
明治二十三年五月二十九日
法律第四十一號
明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則ニ依ル選舉ニハ府縣

制ヲ施行スル迄ノ間衆議院議員選舉法罰則補則ヲ適用ス但其ノ第二條第一項ニ衆議院議員選舉法第九十二條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選舉規則第六十二條其ノ第二條第二項ニ衆議院議員選舉法第九十三條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選舉規則第六十三條ヲ適用スルモノトス

府縣會議員選舉規則中此ノ法律ニ矛盾スルモノハ効力ヲ有セズ

○市町村會議員選舉罰則 明治二十三年五月二十九日
法律第三十九號
第一條 凡テ選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員トナリタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第三條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉會場ノ近傍若クハ選舉人往

○市町村會議員選舉罰則

○市町村會議員選舉規則

來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス

其供ヲ受ケタル者亦同シ

第四條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ノ爲ニ選舉會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ宿泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シタル者ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス 其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條 第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ニ禁行ヲ加ヘヨル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六條執行ノ例ニ依リ處斷ス

第八條 第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條 選舉人ヲ脅逼シ若クハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ聚集シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ聚集ニ應シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮又ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 選舉ノ際選舉ニ關スル吏員若クハ選舉掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪スル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條 多衆ヲ聚集シテ第十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ聚集ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者武器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條 選舉會場所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ箒火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用ヰル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受

○市町村會議員選舉法罰則

○市町村會議員選舉法附則

百二十二

ルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以
上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ヌ又ハ
當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虛報ヲ流傳セシメタル者ハ三圓以上三拾
圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 武器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三
拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者
ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ選舉人タルコトヲ得ス
シテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 當選人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其
當選ハ無効トス

第十九條 本法ニ規定シタルモノ、外刑法ニ正條アルモノハ各々其條ニ
依リ重キニ從テ處斷ス

第二十條 本法ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第二十一條 本法ハ市町村會ノ外市制町村制並ニ明治二十二年法律第十

一號ニ據リテ開設スル各種ノ議會ノ議員選舉ニモ適用ス

●酒造稅法 明治二十九年三月
法律第二十八號

第一條 此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、
酒精ノ六種トス

第二條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造所一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受
ヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條 其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一酒年度トス

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其造石數ニ應シ左ノ割合ニ從ヒ造石稅ヲ
課ス

第一種 清酒、白酒 一石 金七圓

第二種 味淋、濁酒 一石 金六圓

第三種 燒酎、酒精 一石 金八圓

但シ當分ノ内北海道ニ於テハ渡島國一圓後志國ノ内八郡磯谷郡、歌志
本郡、檜山郡、遠敷郡、檜浦郡、大井町郡、磯谷郡、歌志本郡、檜山郡、遠敷郡、檜浦郡、大井町郡ニ付金一
圓ヲ減ス

第五條 新ニ清酒製造ノ免許ヲ受クル者ハ造石高百石以上ニ非サレハ許
可セス

○酒造稅法

四十三

○酒造税法

第六條 造石税ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス

第一期 七月一日ヨリ同十五日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月卅日迄査定石數ニ係ル税額四分ノ一

第二期 九月一日ヨリ同十五日限

同上

第三期 翌年一月一日ヨリ同十五日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル税額四分ノ一

第四期 翌年三月一日ヨリ同十五日限

前納額ノ殘數

第七條 政府ハ酒類ヲ製造スル者脱税又ハ通税ヲ謀ルノ所爲アリト認ム

ルトキハ前條ノ納期ニ拘ハラス造石税ノ全部又ハ一部ヲ徴收スルコト

ヲ得

第八條 酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ清酒ニ限り命令ノ定

ムル所ニ依リ査定石數百分ノ二以内ノ滓引減量ヲ控除スルコトヲ得

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又

ハ證據物件ニ就キ之ヲ査定ス

第九條 粕漉シタル酒類ハ粕漉ニ依リ増加シタル分ノミニ就キ其ノ造石

數ヲ査定ス

第十條 酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シ

タルモノトシテ其ノ造石數ヲ査定ス

一 他人ニ讓渡ストキ

二 公賣セラルルトキ

三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第十一條 酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテ

ハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其ノ造石税ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條 左ノ酒類ニ係ル未納ノ造石税ハ之ヲ免除スルコトヲ得但シ釀

造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限リニ非ス

一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ

二 酒類ノ腐敗シテ廢棄ニ屬シタルモノ

三 腐敗シタル酒類ニシテ蒸餾酒ノ製造ニ供スルモノ

四 容器ノ損傷ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十三條 酒類ヲ製造スルモノハ納税保証トシテ造石税半額ニ相當スル

○酒造税法

○酒造稅法
保証物ヲ供スヘシ保証物ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 左ノ場合ニ於テハ保証物ヲ免除ス
一 相當ノ納稅保証人ヲ供シタルトキ
二 納稅保証トシテ造石稅額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ
三 造石稅ヲ前納シタルトキ

第十五條 酒類ヲ製造スル者稅金ヲ納メルトキハ政府ハ納稅保証ニ供シタル保証物及保正ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ造石稅金ヲ徵收スヘシ但シ仍滯納アルトキハ滯納處分ノ執行ヲ妨ケス

第十六條 納稅保証人ハ酒類ヲ製造スル者造石稅ヲ完納スル能ハサルトキハ納稅者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス

第十七條 酒類ヲ製造スル者納稅保証トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スコトヲ得ス

第十八條 酒類ヲ製造スル者ハ造石數査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十九條 收稅官吏ハ命令ノ規程ニ依リ酒類ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十條 酒類ヲ製造セサル者酒母又ハ醪ヲ製造セムトスルトキハ政府ノ免許ヲ受ケ酒類ヲ製造スル者ト等シク其ノ檢査監督ヲ受クヘシ

第二十一條 酒類ヲ製造セサル者其ノ製造ニ係ル醪ヲ飲料ニ供シ又ハ飲料トシテ讓渡シタルトキハ濁酒ヲ製造スル者トシ其ノ製造ニ係ル總石數ノ造石稅ヲ課ス

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ酒類、酒類製造用ノ爲酒母若ハ醪ヲ製造シ又ハ他人ヨリ讓受ケタル酒母若ハ醪ヲ以テ酒類ヲ製造シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケスシテ醪、濁酒、白酒、燒酎、製造用ノ爲酒母一斗以下ヲ製造シ又ハ他人ヨリ讓受ケタル酒母ヲ以テ醪、濁酒、白酒、燒酎ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三石以下ヲ製造シタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ本項前段ノ場合ニ於テ酒母ノ量數不明ナルモ其ノ製造シタル醪若ハ酒類ノ量數一種若ハ數種ヲ通シテ三石以下ナルトキハ仍本項ニ依ル

第二十三條 酒類ヲ製造セサル者免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 酒類ヲ製造スル者詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ查

○酒造税法

定テ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石税三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス

第二十五條 酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ講ヘ造石税ノ免除ヲ得久ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石税三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス

第二十六條 納税保証トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者罰納處分ヲ受クルモ仍税金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石税ノ三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス

第二十七條 酒類製造用ト否ト、問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ醱ノ檢査ヲ受ケサル者ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 酒類ヲ製造スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 酒類ヲ製造スル者收税官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ

刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十一條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 酒類ヲ製造スル者ノ代理人、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ税法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニヨリサルノ故ヲ以テ此ノ税法ノ處罰ヲ免ルニトテ得ス

第三十三條 第二十九條乃至第三十二條ハ酒類、製造セサル者ニシテ酒母又ハ醱ヲ製造スル者ニモ適用ス

第三十四條 酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造ニ廢止スルモ造石税完納前ニアリテハ總テ此ノ税法ノ規程ニ從フモノトス

第三十五條 府縣及市町村ハ此ノ税法ニ依リ造石税ヲ課スル酒類ニ對シ特令アルモノヲ除キ府縣税若ハ地方税及市町村税附村費ヲ課スルコトヲ得ス

附則

第三十六條 神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續酒類ヲ製造スルトキハ一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無税トス

○酒造税法

○自家用酒稅法

百八十

第三十七條 此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但ノ明治十三年市告第四十號同年市告第四十一號同十六年市告第四十二號及同十二年法律第二十四號ハ此ノ稅法施行ノ日ヨリ廢止ス
明治二十九年九月三十日前檢査濟石數ニ係ル造石稅ニ關シテハ仍明治十三年市告第四十號ニ依ル

第三十八條 沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅法ヲ施行セズ

●自家用酒稅法 明治廿九年三月法律第二十九號

第一條 濁酒、白酒、燒酎ニ限リ自家用トシテ製造セムトスル者此ノ稅法ニ依リ製造免許ヲ出願スルトキハ政府ハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 自家用酒ノ製造免許ハ一家一人ニ限ル其ノ造石數ハ各酒類ヲ合ヒテ一酒造年度間（其ノ年十月ヨリ翌年九月マデ）二石以下トス但シ直接國稅ヲ納メサル者及其納額五圓未滿ノ者ハ其造石數一石ニ超ユルコトヲ得ス

第三條 自家用酒ノ製造ヲナス者ニハ毎年度左ノ製造稅ヲ課ス
一 前條但書ニ該當スル者 金二圓
二 直接國稅五圓以上十圓未滿ノ者

一 石 造

金三圓

二 石 造

金八圓

第四條 製造稅ハ之ヲ二分シ其ノ年十月及翌年四月ヲ以テ納期トス但シ納期後ニ免許ヲ受クルトキハ即納トス
第五條 左ニ掲クル者及其ノ家族、同居者、同居ノ雇人ハ自家用酒製造ノ免許ヲ請フコトヲ得ス

- 一 直接國稅十圓以上ヲ納ムル者
- 二 酒類製造營業人及酒類販賣人
- 三 醬油製造營業人及醬油販賣人
- 四 酒母又ハ醪製造人及酒母販賣人
- 五 酢製造營業人及酢販賣人
- 六 料理店、飲食店、旅人宿營業者

自家用酒製造ノ免許ヲ得ル者前各號ノ一ニ該當スルニ至ルトキハ其免許ノ効力ヲ失フモノトス

第六條 自家用酒ハ製造ノ免許ヲ受ケタル者ノ各自ノ居宅城内ニ限リ之ヲ製造スルコトヲ得

第七條 收稅官吏ハ自家用酒製造者ニ就キ檢査ヲ爲スコトヲ得

○自家用酒稅法

百八十一

○自家用酒稅法

百八十二

第八條 自家用酒製造者其ノ製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ其居宅域外ニ於テ自家用酒ヲ製造シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 自家用酒製造者免許限ヲ超過シテ酒類ヲ製造シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ超過石數ニ對シ酒造稅法第四條ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ即時之ヲ徵收ス

第十條 自家用酒製造者元用トシテ清酒、味淋、酒精ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ酒造稅法ニ依リ處分ス

第十一條 第七條ノ檢査ニ關シテハ酒造稅法第三十條ヲ適用ス

第十二條 此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加算、數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第十三條 自家用酒製造者ノ家族、雇人、同居者ニシテ其ノ製造ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ此ノ稅法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第十四條 此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十九年勅令第六十號ハ此ノ稅法施行ノ日ヨリ廢止ス

附 則

第十五條 沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ管分此ノ稅法ヲ施行セス

●混成酒稅法 明治廿九年三月 法律第三十號

第一條 此ノ稅法ニ於テ混成酒、稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一 酒精ト他ノ物品トテ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

二 二種以上ノ飲料酒類ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

三 一種又ハ二種以上ノ飲料酒類ト他ノ物品ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

四 飲料酒類ニ酒精若ハ燒酎ト水ヲ混和シタルモノ

第二條 混成酒ヲ製造スル者コ、其ノ造石數一石ニ付金六圓ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

混成酒元用トシテ酒造稅法ニ掲クル酒類ヲ製造スル者ニハ該稅法ノ造石稅ヲ課ス

第三條 第一條第四號ノ混成酒ヲ製造スルモ別種ノ飲料トナラス單ニ酒造稅法ノ酒類ノ造石數ヲ増加スルニ止ルモノハ其ノ増加石數ノミニ課稅ス

第四條 造石稅ノ納期ヲ左ノ二期トス但シ廢業シタル者ハ即納トス

○混成酒稅法

百八十三

第一期 其ノ年七月一日ヨリ同三十一日限
一月一日ヨリ六月三十日迄査定済石數ニ係ル稅額
第二期 翌年一月一日ヨリ同三十一日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄査定済石數ニ係ル稅額

第五條 混成酒ヲ製造スル者ハ收稅官吏ノ認許ヲ受クルニ非サレハ其ノ製造シタ、酒類ヲ販賣シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第六條 第五條ヲ犯シタ者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 酒造稅法第二條、第七條、第八條、第十一條、第十二條、第十八條、第十九條、第二十二條第一項、第二十四條、第二十五條、第二十八條、第二十九條、第三十條、第三十一條、第三十二條、第三十六條ハ混成酒ノ製造ニ適用ス

附 則

第八條 此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

第九條 沖繩縣東京府管下小笠原伊豆七島ニハ當分此ノ稅法ヲ施行セズ

● 酢元用酒類製造規則 明治十六年十二月二十二號布告

酢元營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許

稅、第四條第三項ヲ除クノ外該規則ニ準據スヘシ第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未済ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サズ犯ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價追徵ス

● 酒精營業稅法 明治二十六年四月法律第十七號

第一條 酒精（アルコール）又ハ他物ト混和シタル酒精ヲ販賣スル營業者ヲ分テ左ノ二種トス

甲種營業人 本條ノ物品ヲ製造シ又ハ買入レ之ヲ自用者ニ非サル者ニ販賣スル者

乙種營業人 本條ノ物品ヲ製造シ又ハ甲種營業人ヲ經由セスシテ買入レ之ヲ自用者ニ販賣スル者

第二條 本法ノ營業ヲ爲サルトスル者ハ先ツ管廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 營業ノ免許ヲ受クル者ハ政府ノ定ムル所ニ從ヒ保證金トシテ十圓以上十圓以下ノ現金又ハ國貨證券ヲ以テ供託スヘシ

第四條 本法ノ稅金ヲ滯納シタルトキハ保證金ノ一部又ハ全部ヲ以テ稅金ニ充ツ仍不足スルトキハ明治二十二年法律第三十二號國稅滯納處分

○酒精營業稅法

法據ヲ處分スヘシ

第五條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ算程ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ

甲種營業人 酒精(アルコール)一石ニ付金二十五圓ノ割合

乙種營業人 酒精(アルコール)一石ニ付金二十五圓ノ割合

營業人ヲ經由セスシテ第一條ノ物品ヲ買取リ消費スル者ハ本條ニ準シ

テ納稅スヘシ

第六條 營業稅ハ翌年一月三十一日限之ヲ納ムヘシ但シ廢業スル者ハ其

ノ際營業稅ヲ納ムヘシ

前項ノ期限内ト雖營業稅高第三條ノ保證金高ニ超過スルトキハ先ツ其

ノ稅金ヲ納メテ後之ヲ販賣スヘシ

第七條 第一條ノ物品ヲ醫藥用又ハ工業用ニ供スル者(造酒家ヲ除ク)ハ

勅令ヲ以テ定ム所ノ規定ニ從ヒ其ノ營業稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第八條 營業者ハ帳簿ヲ調製シ第一條物品ノ出入ニ關スル事項ヲ記載ス

ヘシ

前項ノ帳簿ハ主任官吏ノ檢定ヲ受クヘシ

第九條 主任官吏ハ正當ノ命令ニ依リ營業者ノ營業ニ關スル帳簿物品等

ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十條 無免許ニテ營業シタル者ハ其ノ現在酒精類及營業用ノ物品器械

ヲ沒收シ營業稅三倍ノ罰金ニ處ス但シ已ニ賣捌キタルモノハ其ノ代價

ヲ追徴ス

第十一條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若ハ故ヲニ記載ヲ爲サシテ脫稅ヲ圖リ又

ハ脫稅シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ

處ス

第十三條 本法ヲ犯シタル者ハ刑法ノ不諭罪及減輕再犯加算、數罪俱

發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 本法ハ明治二十六年七月一日ヨリ施行ス

●酒精營業稅法施行細則 明治二十六年六月二日 大藏省令第十號

酒精營業稅法施行細則

第一條 酒精營業ノ免許ヲ受ケントスル者ハ一箇年販賣見込石量ヲ記載

シタル願書ヲ管廳ニ差出シ營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

營業場ハ倉庫建物ノ棟敷ニ拘ハテス總テ一區域ヲ以テ一箇所トス其區

域外ニシテ營業物品ヲ藏置スルニ止マル場所ハ許可ヲ受ケ營業場ノ附